

令和元年度  
宮崎大学概要

世界を視野に  
地域から始めよう

O V E R V I E W  
UNIVERSITY OF MIYAZAKI  
2019



# CONTENTS 令和元年度 宮崎大学概要

学長挨拶 ……………2	大学院 ……………8	学内共同教育研究施設 ……………9・10	地域貢献 ……………13・14
本学の理念・目的 ……2	教育学研究科	産学・地域連携センター	国際交流 ……………15
教育の特色 ……………3	看護学研究科	教育・学生支援センター	資料編 ……………16
研究の特色 ……………5	工学研究科	フロンティア科学実験総合センター	キャンパスマップ ……49・50
学部・別科 ……………7	農学研究科	国際連携センター	アクセス ……………50
教育学部	医学獣医学総合研究科	産業動物防疫リサーチセンター	
医学部	農学工学総合研究科	語学教育センター	
工学部	学長戦略企画室 ……………9	IR推進センター	
農学部	附属施設 ……………9	学内組織 ……………11	
地域資源創成学部	医学部附属病院	安全衛生保健センター	
別科	附属図書館	情報基盤センター	
	農学部附属動物病院	障がい学生支援室	
		テニユアトラック推進機構	
		清花アテナ男女共同参画推進室	
		みやざきCOC+地元定着推進室	
		学内施設 ……………12	
		農学部附属農業博物館	
		創立330記念交流会館	
		地域デザイン棟	
		イスラーム文化研究交流棟	
		まちなかキャンパス	
		日南デスク	



# 世界を視野に 地域から始めよう



宮崎大学長  
池ノ上 克

旧宮崎大学と宮崎医科大学とは平成15年10月に統合しました。平成16年4月からは国立大学法人宮崎大学となり、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、生命科学、環境科学、エネルギー科学、食の科学の分野を筆頭に、国際的に通用する特色ある高度な学術研究結果を世界へ発信しています。

本学は、教育学部、医学部、工学部、農学部、地域資源創成学部の5学部からなる総合大学です。大学院には修士課程として教育学研究科、看護学研究科、工学研究科、農学研究科があります。さらに異分野融合型のユニークな研究体制である、医学獣医学総合研究科修士および博士課程、農学工学総合研究科博士課程を備えています。

また、宮崎県は有数の畜産県であることから、産業動物防疫リサーチセンターを設置して、家畜感染症に関する国際的な教育や研究が行われています。基盤となる研究施設には大・中動物用の実験機器を備え最新の研究体制を整備しています。

医学部附属病院では様々な高度医療の提供とともに、救命救急センターにドクターヘリやドクターカーも導入して、地域の中核医療拠点となる総合病院の役割を果たしています。

さらに、宮崎市立田野病院の指定管理者の役割を果たしながら、地域医療を見据えた総合診療医教育の場として、医療者の育成に積極的に取り組んでいます。

本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として旗幟を鮮明にしており、文部科学省「地（知）の拠点（COC：Center of Community）整備事業」（平成25年度～29年度）で高い評価をいただき、その継続事業である「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（平成27年度～）にも採択され、県内の大学・高专、自治体や産業界と連携して宮崎県内の産業人材の育成と若者の定着に向けた取組を推進しています。

今後とも地域の市町村や様々な企業との連携を深めながら、輝き続ける大学でありたいと考えています。

## 本学の理念・目的

人類の英知の結晶としての学術・文化・技術に関する知的遺産の継承と発展、深奥な学理の探究を目指す。また、変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成を使命とする。更に、地域社会の学術・文化の発展と住民の福利に貢献する。特に、人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育んできた地球環境の保全のための科学を志向する。

## シンボルマークについて



宮崎大学の頭文字「宮」をモチーフとして図案化し、さらにそれを擬人化したシンボルマークです。白い丸は、だんだん拡大される宮崎大学のイメージをあらわし、緑色の中の二つの丸は、統合した宮崎大学と宮崎医科大学を象徴するものとしてデザインしました。さらに、図形は、躍動する若人の姿と全体の円を地球としてとらえたグローバルにはばたく姿も表現しています。また、緑（グリーン）と青（ブルー）の2色は、自然豊かな宮崎の木々の緑と澄んだ空と海の青をイメージし、宮崎という地域にある本学のスクールカラーにふさわしい色として採用しました。

## 宮崎大学オリジナルキャラクター



平成23年5月、学内公募により誕生した、宮崎大学オリジナルキャラクター「みやだいまうくん」です。本学の英語表記である「University of Miyazaki」の頭文字「UoM」を逆から読んで「Mou（もう）」、この音が牛の鳴き声に似ていることが名前の由来です。宮崎大学を広くアピールするため、いろいろな場面で活躍しています。

# 教育の特色

## 地域で育てるグローバルな人材

「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、宮崎大学では、地域をフィールドにして培った課題解決能力と実践的な語学力をそなえ、グローバルな視野で主体的に活躍できる人材を育てようとしています。このような人材を育成するために、学部段階の教育では基礎（教養）教育と専門教育とが連続して展開されるように学士課程一貫の教育カリキュラムを構築しています。

基礎教育では「課題発見科目」を設け、現代社会の抱える課題を発見するために地域の理解を深める題材を取り入れ、アクティブ・ラーニング（能動的な学習）を重視した教育方法により、地域の課題解決を実践します。外国語科目（英語）では、専門分野に関連する基礎語彙を習得し、それを使って質問や説明ができるように、専門分野への橋渡しとなる発信型の授業を1年次から導入しています。

専門教育は、基礎教育において培った基礎力をベースに学年進行に伴って応用発展へと進んでいきます。地域をフィールドにして（地域的な特性を活用して）、実践的かつ高度な専門知識・技能を備え、グローバルな視野で活躍するために欠かせない課題解決能力を身につけます。

さらに、地域の活性化や地域課題の解決に貢献できる人材を育成するためのCOC事業（「地（知）の拠点事業」）による地域志向型一貫教育プログラムも展開されています。所定の授業科目を履修しプログラムを修了した学生には、「地域活性化・学生マイスター（初級、上級）」の称号が授与されます。

## 異分野融合による教育

本学の教育の特色のひとつは、異なった分野の知識・視点・方法等を融合させることによって、新たな教育を展開している点にあります。平成28年度に新設された地域資源創成学部においては、マネジメントに関する専門知識と、社会・人文科学、及び農学・工学分野の利活用技術の基礎知識によって編成された異分野融合のカリキュラムが構築され、そこでは単に地域を教育研究のフィールドとするだけでなく、地

域の人々との協働教育や全県規模でのインターンシップ教育も実施しています。

大学院では、研究科ごとに特徴ある高度専門職業人の養成をめざした教育プログラムが用意されており、特に博士課程においては、農学と工学が融合した農学工学総合研究科（博士後期課程）、医学と獣医学が融合した医学獣医学総合研究科（平成26年度からは修士課程を併設）が、それぞれ全国に先駆けて創設されました。教職大学院（教職実践開発専攻）では、各教科等の領域が融合したカリキュラムが編成されています。

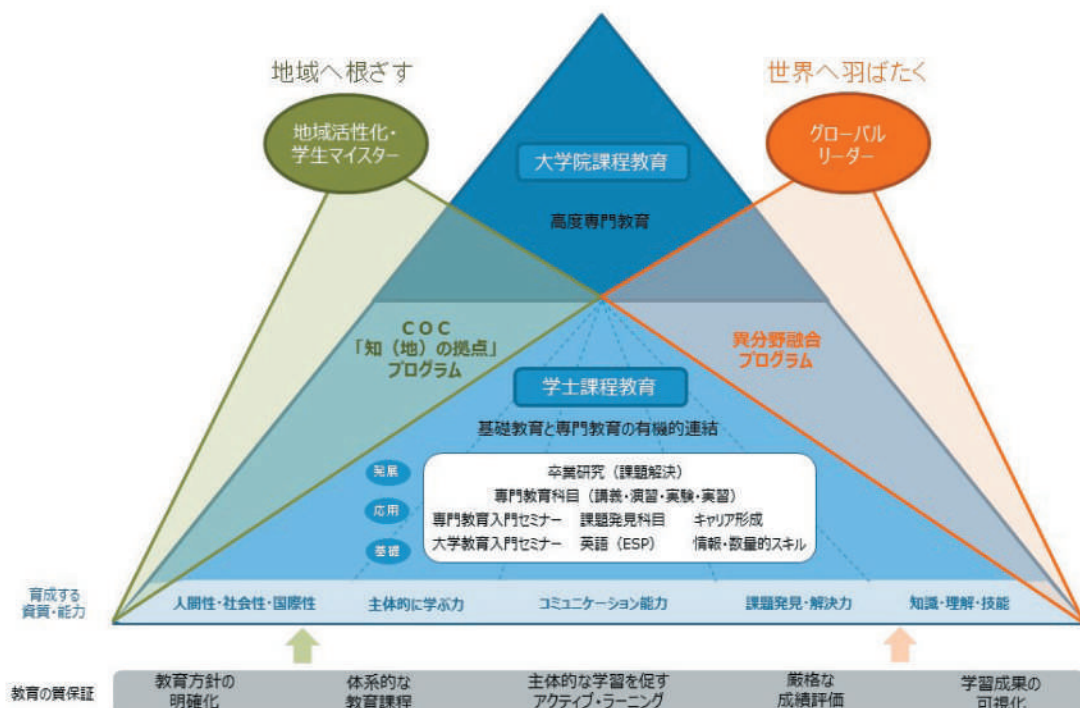
このように、旧来の縦割りの学問分野による教育ではなく、これまで領域を異にしていた分野を新たに融合させることによって、相互の研究や教育の質を向上させ、なおかつ、これまで手の届きにくかった融合領域に関して新たな研究成果や教育効果をもたらしています。異分野融合による教育・研究の成果は各学部の専門教育にも着実に活かされ、グローバルな人材を地域で育てるといふ本学のスローガンを実質的に支えています。

## 自立性を育てる学習環境の整備

サークル活動やボランティア活動、海外研修留学など、正規のカリキュラム以外での活動を通してさまざまな資質・能力を磨くことや、自己と社会との関わりについて考えを深めることも大学教育の重要なねらいのひとつです。本学では、学生自身が大学や地域社会を活性化するための取組を企画運営することにより、企画力や実行力を身につけることを目的とした、「とって元気！宮大チャレンジ・プログラム」という本学独自の事業を平成17年度から実施しており、これまで多くの成果を生み出してきました。

また、ラーニングコモンズ等の自主学習の環境を整備しており、それらを利用した学生たち自身による自主的・自発的な学習活動も増えています。このように、本学では、自由な行動できる自立した人材を育成するために、自由に学ぶという理念に支えられた「学びやすい環境」を準備できるように取り組んでいます。

## 本学における学士・大学院教育の概念図



## 教育理念

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもとに、人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産の継承と発展、深奥なる学理の探究、地球環境の保全と学際的な生命科学の創造を目指し、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念として掲げています。

## ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

宮崎大学では、以下の素養を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位（学士号）を授与します。

1. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使い、社会の発展のために積極的に関与できる。
2. 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. 相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
5. 学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。

## カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

宮崎大学では、教育学部、医学部、工学部、農学部、地域資源創成学部を置き、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

### 【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとられず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学力発展科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、学科・課程専門科目を設置する。
4. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
5. 専攻分野を超えて学際的な視点を養う科目を設置する。
6. 獲得した知識や技能を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を育成するために、卒業研究等の科目を設置する。

### 【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習、実技などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程教育において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

### 【点検・評価】

1. GPA制度を導入し、教育の質保証に向けて点検・評価・改善を行う。
2. 成績評価基準・方法に基づき、多様な評価方法を用いて厳格な評価を行う。
3. 学生は自己の学修の振り返りを行い、教員は学生の自己評価に基づいて指導を行う。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。

## アドミッション・ポリシー（入学者受入・選抜の方針）

宮崎大学では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）に掲げた、社会の発展に積極的に貢献する人材の養成を目指しています。そのため、以下の「求める学生像」に示す、知識・技能、思考力、及び意欲を持った人を国内外から積極的に受け入れます。

### 【求める学生像】

1. 本学の教育理念に共感し、入学後の学修に充分対応できる基礎的な知識・技能を有する人
2. 身に付けた知識・技能を応用して問題を解決する上で必要となる思考力を有する人
3. 身に付けた知識・技能及び思考力を地域社会や国際社会において自ら積極的に活用し、その発展に貢献する意欲を持った人

### 【入学者選抜の基本方針】

1. 求める学生像に沿って、多様な入試方法により多面的・総合的に選抜する。
2. 客観的で透明性のある方法によって、公平に選抜する。

## 宮崎大学の教育プロジェクト（令和元年度現在）

教育プログラム採択状況等			
高等教育における人材育成支援 ※1		期間	学部等
数理・データサイエンスを活かした地域産業人材の育成に向けたカリキュラム・教材の開発	数理及びデータサイエンスに係る教育強化協力校	2019.4~2022.3	全学
国公私立大学を通じた大学教育改革の支援 ※2		期間	学部等
大学間連携による地域ニーズを捉えたみやざき産業人材育成 食と健康を基軸とした宮崎地域志向型一貫教育による人材育成	地（知）の拠点大学による地方創成推進事業	-	全学

※1 世界に先駆けた「超スマート社会」の実現に向けて、我が国の産業活動を活性化させるために必要な数理・データサイエンスの基礎的素養を持ち、課題解決や価値創出につなげられる人材育成をサポートする文部科学省のプログラム。

※2 大学における学生教育の質の向上を目指す特色ある優れた取組。

JABEE(ジャビー) ※3	認定分野	期間
工学部 環境応用化学科	化学及び関連のエンジニアリング分野	2004.4~2021.3
工学部 社会環境システム工学科	土木及び関連の工学分野	2003.4~2020.3
工学部 機械設計システム工学科	機械及び関連の工学分野	2005.4~2022.3
工学部 電子物理工学科	物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野	2017.4~2023.3
工学部 電気システム工学科	電気・電子及び関連の工学分野	2004.4~2021.3
工学部 情報システム工学科	CS（コンピュータ科学）分野	2005.4~2022.3
農学部 応用生物科学科	農学一般関連分野	2015.4~2021.3

※3 日本技術者教育認定機構。これに認定された教育プログラムは、教育活動の品質が国際的レベルにあることや、技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功していると評価されたこととなります。

JACME(ジャクミー) ※4	認定分野	期間
医学部 医学科	医学教育分野	2019.6~2026.5

※4 日本医学教育評価機構。これに認定された教育プログラムは、医学教育の充実・向上を図り、我が国の保健、医療、福祉、衛生、並びに国際保健に貢献するために、必要な知識や能力の養成に成功していると国際的見地から評価されたこととなります。

# 研究の特色

## “生命・環境・エネルギー・食”をキーワードに研究を推進

膨張・拡散を繰り返す様々な人類の活動が、私たちが抱えている地球の許容限界に遭遇することに気づかされはじめて半世紀。今もなお科学技術による知の集積が進むなか、国際的な枠組みづくりの努力が始まりました。しかし、歴史的、文化的、宗教的な社会環境の隔たりや経済格差等を要因に、人類は、この地球上で持続的な生活を営んでいくための知と技術の共有を為し得ていません。

宮崎大学では、人類の持続的生存を保障していくため、“生命・環境・エネルギー・食”をキーワードに研究を推進し、教育学、医学、工学及び農学の分野に加えて平成28年度からSocial Innovationを興すべく、文理融合型の新たな分野(地域資源創成)を加えて基盤的研究拠点の充実を図っています。大学院研究科も、我が国では初めての農学工学総合研究科及び医学獣医学総合研究科と看護学研究科さらには学内共同教育研究施設の前線科学実験総合センターや産業動物防疫リサーチセンター等が関連分野と融合して多くの成果を発信し続けています。また、医工農連携や医工教連携による融合研究など福祉社会の充実に向け、相互の研究分野の向上と異分野融合による新たな学問領域の基盤を創出しながら「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと様々な分野において、地方自治体、企業や団体等との連携研究による多くの研究成果が広く地域に還元されています。

## 宮崎大学の研究戦略・推進体制

### <研究目標>

宮崎大学は、現代社会が直面する医学、農学、工学、人文社会科学等の分野の諸問題に取り組み、独創的、萌芽的、学際的あるいは融合的研究によって得られた成果を基盤に、人類・社会の持続的發展に寄与する。

### <研究戦略>

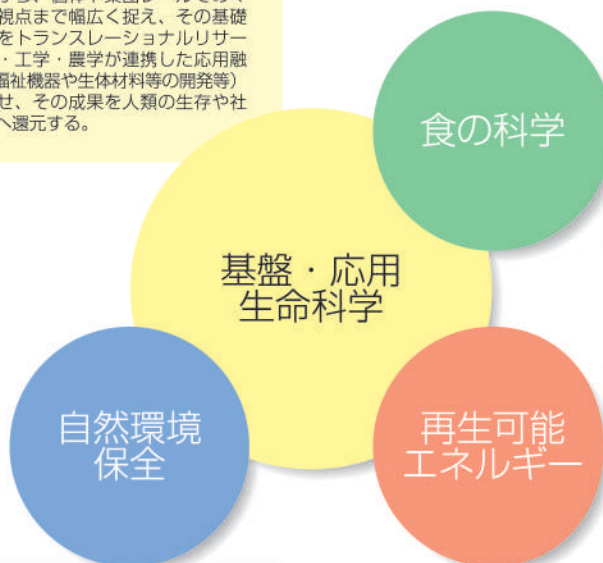
上記の研究目標を達成するために、生命科学を基盤とし、環境・エネルギー・食を加えた4つを本学の重点研究分野とし、学部、学科および各センターがそれぞれの枠を超えて連携融合して研究する。また、それぞれの研究分野に関わる人的充実を図り、全学的な組織で推進する。

生命現象を遺伝子や細胞レベルでのミクロな視点から、個体や集団レベルでのマクロ的な視点まで幅広く捉え、その基礎研究成果をトランスレーショナルリサーチや医学・工学・農学が連携した応用融合研究（福祉機器や生体材料等の開発等）へ発展させ、その成果を人類の生存や社会の発展へ還元する。

地域に優位性のある農水畜産物の生産から加工、流通、販売に至るプロセスを強化・拡大するための基礎・応用研究や食品の機能性や安全性に関わる研究、あるいは産業動物の国際的防疫に関する研究を通して、地域産業の活性化あるいは人類の食糧資源の持続的確保に貢献する。

太陽エネルギーやバイオマスなどの再生可能エネルギーの変換・流通、蓄電・蓄熱、省エネルギー、および革新的なエネルギー高度利用など、再生可能エネルギーの普及を図る研究開発を通して、持続可能な低炭素社会の実現に貢献する。

地球環境に関する幅広い専門領域を連結し、生物種や遺伝子それぞれのレベルでの生物多様性保全、海洋、森林、里地などでの生態系保全の研究、自然災害に対する防災・減災、水資源浄化やリサイクルなど資源循環型社会を実現するための研究を通して、持続的な自然環境の保全に貢献する。



学 長

学長戦略企画室

研究・企画担当理事

### 【研究戦略タスクフォース】

研究・企画担当理事が、研究戦略に関わる領域の研究者を宮崎大学における学術研究活動のリサーチ・コーディネーターとして部局にとらわれずに選任し、重点分野を中心とした戦略的研究プロジェクトの企画、外部資金獲得、研究基盤の整備、研究成果の社会還元等を推進する。

連携

フロンティア科学実験総合センター  
産業動物防疫リサーチセンター  
産学・地域連携センター  
国際連携センター  
テニユアトラック推進機構  
清花アテナ男女共同参画推進室

支援

### 【研究国際部】

研究推進課：外部資金（研究費等）に関する情報収集・申請等  
産学・地域連携課：地域・企業等との共同研究に関する情報収集・支援  
国際連携課：海外との共同研究等に関する情報収集・支援

# 宮崎大学の重点領域研究プロジェクト

宮崎大学研究戦略（生命科学、環境保全、再生可能エネルギー及び食分野）に基づく重点領域研究プロジェクト				
キーワード	研究テーマ	プロジェクトリーダー	所属	職名
人の健康	生活習慣病の発症機構の解明と診断・治療応用に向けた基礎的研究	伊達 紫	役員	理事
	宿主微生物複合系の恒常性に関する研究	丸山 治彦	医学部	教授
	HTLV-1感染からHTLV-1感染付随疾患、成人T細胞白血病（ATL）発症に至る発症機構の解明ならびに革新的な診断・治療法の開発に関する研究	森下 和広	医学部	教授
	疾患病態解析と画像イメージングへの展開に関する研究	浅田祐士郎	医学部	教授
	循環器疾患の克服を目指した病態生理の解明とその制御に関する研究	武谷 立	医学部	教授
	魚類を用いた疾患モデルの開発および創薬に関する研究	剣持 直哉	フロンティア ※1	教授
	非感染性慢性炎症性疾患の発症・増悪機構の解明ならびに革新的な診断・治療法の開発に関する研究	佐藤 克明	医学部	教授
	自殺率減少のための、うつ病に関する生物学的研究	高宮 考悟	医学部	教授
	がん細胞特性とがん細胞周囲微小環境に着目した固形がんの新たな診断・治療戦略に関する研究	片岡 寛章	医学部	教授
	臨床研究に活用可能な電子カルテ情報の質向上に関する研究	荒木 賢二	医学部	教授
	新規蛍光・光感受性物質を用いた生体構造・機能「光」イメージング解析	菱川 善隆	医学部	教授
	健診データとレセプトデータを利用し、地域疫学調査を加味した地域コホートの構築	黒田 嘉紀	医学部	教授
	宮崎県のpopulation-based研究における周産期脳障害の原因の解明と治療法、予防戦略に関する研究	岐島 浩	役員・医学部	理事・教授
	ロコモ予防およびスポーツ推進による産官学地域連携健康増進プロジェクト	帖佐 悦男	医学部	教授
	バリアフリー社会実現のための生活支援技術の開発 ―「日本一障がい者・高齢者がいきいき生活できる宮崎」を目指して―	田村 宏樹	工学部	教授
動物の健康	人獣共通感染症制御に向けた基礎研究	三澤 尚明	CADIC ※2	センター長・教授
	ストレスと生殖に関する研究	中原 桂子	農学部	准教授
	学部横断的細胞ベジクル研究拠点形成	池田 正浩	農学部	教授
	牛の高産期疾患の診断治療プロトコルおよび予防ストラテジーの確立	大澤 健司	農学部	教授
生理活性物質	生理活性ペプチドのトランスレーショナルリサーチ：Bench to Bedside and Molecules to Market	北村 和雄	医学部	教授
	宮崎発ペプチド発見	中里 雅光	医学部	教授
環境保全	防災・減災研究とその実践	稲垣 仁根	農学部	教授
	宮崎県に特徴的な再生可能資源を活用した資源循環型アグリシステムの構築	佐伯 雄一	農学部	教授
	画像技術やゲノム解析技術を活用した地域産業の活性化	山森 一人	工学部	教授
	廃棄物の再生利用と土壌・地下水等に含まれる重金属等の分離・除去による環境保全に関する研究	木之下広幸 石井 康之	工学部 農学部	准教授 教授
	健全な水循環系の構築と安全な水資源の確保	鈴木 祥広	工学部	教授
	交通ネットワーク途絶に対する脆弱性低減のための計画論の策定	嶋本 寛	工学部	准教授
	森林における生態系サービス発揮機構の解明および生態系サービスを活用した持続可能な森林管理手法の開発	伊藤 哲	農学部	教授
	宮崎の多様な色素資源を用いる科学教育支援教材の開発	中林 健一	教育学部	教授
	地方創成型実践的海洋教育の授業カリキュラム開発	湯地 敏史	教育学部	准教授
	再生可能エネルギー	ゼロエミッション水素生産プラットフォーム形成および集光太陽熱利用のためのエネルギー高度利用技術開発	白上 努	工学部
新規光触媒、新規燃料電池および水素系二次電池用高機能材料の開発		酒井 剛	工学部	教授
食	農工連携による地域資源を原料とした経口キャリアの開発	大島 達也 山崎 正夫	工学部 農学部	准教授 教授
	農畜産物の「見える化」技術の構築とその応用	田村 宏樹 河村 隆介	工学部 工学部	教授 教授
	高感度・高分解能放射線測定技術と非線形シミュレーションの融合による新しい食・環境評価システム構築に向けた萌芽的研究	前田 幸重	工学部	准教授
	地域の特性を活かした革新的水産養殖技術の開発に関する研究	酒井 正博	農学部	教授
	食品機能性を軸とした新規食品の開発と大学発ベンチャー企業による産業創造	河原 聡	農学部	教授
	地域に軸足を置いた植物生産に関する基礎的・応用的研究	鉄村 琢哉	農学部	教授
	地域資源の創出・活用に関する総合的研究	熊野 稔	地域資源創成学部	教授
	和食を科学する：地域伝統食材の発掘と利活用	榊原 陽一	農学部	教授

※1 フロンティア科学実験総合センター ※2 産業動物防疫リサーチセンター

# 学部・別科

## 教育学部 多様な学びを通じて、社会に貢献できる教員を目指そう！

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/>



教育学部は、現代の様々な教育課題に対応でき、子供たちの成長をしっかりと支え続け、新しい時代を切り拓く、小学校・中学校・小中一貫校・幼稚園・特別支援学校等の教員を養成します。本学部では、コースごとにカリキュラムが組まれ、学校現場の諸問題や児童生徒の心身の諸問題、各教科の内容・指導法を専門的に学びます。それと共に介護体験実習、教育実習といった、教員になるために必要な、より実践的な教職科目も学習します。

- 課程・コース ● 学校教育課程(小中一貫教育コース、教職実践基礎コース、発達支援教育コース)  
附属施設 ● 附属教育協働開発センター ● 附属学校園(附属幼稚園、附属小学校、附属中学校)



## 医学部 良き医療人材の育成と生命科学分野の研究拠点を目指して

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/>



医学部は、「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学研究者、看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師・医学研究者の育成を目指しています。看護学科では、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目指しています。

- 学 科 ● 医学科 ● 看護学科 附属施設 ● 附属病院



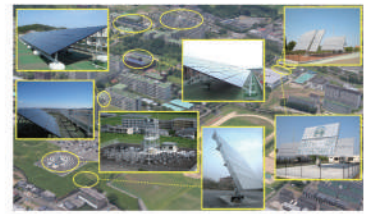
## 工学部 自然豊かな修学環境のもとで高度な専門技術者を目指そう！

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/>



工学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い应用能力を身に付け、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。また、地域産業の発展を推進することにより、地域社会に知的な貢献をすることにつとめています。

- 学 科 ● 環境応用化学科 ● 社会環境システム工学科 ● 環境ロボティクス学科 ● 機械設計システム工学科  
● 電子物理工学科 ● 電気システム工学科 ● 情報システム工学科  
学部内センター ● 工学基礎教育センター ● 環境・エネルギー工学研究センター ● 工学部国際教育センター



## 農学部 日本、アジア、そして世界の食料・環境・人や動物の感染症問題の克服を目指して

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/>



農学部は、環境問題、食の安全確保、持続的な農産物の生産、人と動物の共通感染症克服など、様々な課題に対応できる人材育成を目指し、分野を明確にした6学科を設置しています。各学科が農学部のどの分野での専門職や指導者を育成するかを明確にし、フィールド教育の場(農場、牧場、演習林、水産実験所、動物病院)での実践的教育と研究を進めることで、主体性と創造性に富み、広く社会に貢献できる人材の育成を目指します。

- 学 科 ● 植物生産環境科学科 ● 森林緑地環境科学科 ● 応用生物科学科 ● 海洋生物環境科学科  
● 畜産草地科学科 ● 獣医科学科  
附属施設 ● 附属フィールド科学教育研究センター ● 附属動物病院 ● 附属農業博物館



## 地域資源創成学部 地域を創るリーダーになろう！

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/atrium/>



地域資源創成学部では、マネジメントの専門知識と社会・人文科学、及び農学・工学分野の利活用技術の基礎知識を教授する異分野融合のカリキュラムを構築します。また、研究者教員と実務家教員とが協働した実践的教育、宮崎県全域をフィールドとした実習や国内・海外インターンシップによる地域の方々一体となった協働教育を導入しています。このような教育により、持続可能な地域づくりを包括的にマネジメントでき、地域資源を理解し利活用しつつ、ビジネス・地域産業、行政などの現場で、革新的な価値を創出できる人材の輩出を目指します。

- 学科・コース ● 地域資源創成学科(企業マネジメントコース、地域産業創出コース、地域創造コース)



## 別科(畜産別科) 地域農業の担い手として活躍できる人材の育成を目指して

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/kfield/bekka/index.html>



畜産別科は、高等学校卒業または高等学校卒業と同等以上の学力のある者が、農学部附属する牧場(住吉フィールド)で1年間の修学期間内に、全寮制による充実した実習教育と、本学教員スタッフによる高度な学科教育を行う課程で、畜産関係機関の技術者として、また、地域農業の担い手として活躍できる人材を養成します。本別科の所定の単位を取得した者には、本人の申請によって家畜人工授精師(牛)の資格が与えられます。





# 大学院

## 教育学研究科 専門性の深化と国際性豊かな高度専門人材の育成を目指して <http://www.miyazaki-u.ac.jp/educul/educul.html/daigakuin/index.html>

教育学研究科は、教職実践開発専攻（専門職学位課程[教職大学院]）及び学校教育支援専攻（修士課程）を置き、学部における専門教育又は教職経験の基礎の上に、確かな教育観と幅広い視野を持ち、高度の専門知識、研究力及び実践力を備えて、学校教育をはじめ教育の諸分野において教育研究の中核となり、併せて地域文化の向上に寄与しうる人材の養成を目的としています。



- 専攻等**
- 学校教育支援専攻【修士課程】（教育臨床心理専修、日本語支援教育専修）
  - 教職実践開発専攻【専門職学位課程：教職大学院】（学校・学級経営コース、生徒指導・教育相談コース、教育課程・学習開発コース、教科領域教育実践開発コース）

## 看護学研究科 生命の尊厳を第一に、ケアの本質を研究する <http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/>

看護学研究科は、変化する地域社会や複雑化する社会情勢のニーズ、さらに、拡大・専門化する看護学や看護学教育の必要性を踏まえ、学部教育を基に更なる能力開発と同時に保健医療福祉の現場で広く活躍できる看護学研究者・教育者・実践者・指導者を育成することを目的としています。また、地域社会のニーズに応えとともに、学際的思考と国際的視野から、その研究成果を世界に向けて発信することにより看護学の発展に寄与することを使命としています。



- 専攻・コース**
- 看護学専攻（研究者育成コース、実践看護学育成コース）

## 工学研究科 宮崎の恵まれた環境で未来を切り開く技術者・研究者を目指す！ <http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/departments/master.html>

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる知識基盤社会の時代と言われています。工学研究科は、学部教育を基盤として、高度化、深化した専門知識・技術を身に付け、さらに隣接する関連領域まで俯瞰できる総合的視野を持った想像力豊かな高度専門技術者を養成します。留学生も積極的に受け入れており、国際性豊かな教育・研究環境が形成されています。



- 専攻・コース**
- 工学専攻（環境系コース、エネルギー系コース、機械・情報系コース）

## 農学研究科 専門性の深化と国際性豊かな高度専門人材の育成を目指して <http://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/departments/gsa-master.html>

農学研究科は、平成26年度に従来の5専攻を改組し、新たに農学専攻（1専攻6コース）を設置しました。同専攻では、学部教育の専門性をさらに深化させ、国内外の食料、環境、資源及び生命に関する問題点を解決し、自然環境と調和のとれた持続的生産社会の創造に貢献できるとともに、農学に関する高度な専門知識と応用能力を有する国際性豊かな高度専門技術者及び研究者の育成を目指します。



- 専攻・コース**
- 農学専攻（植物生産環境科学コース、森林緑地環境科学コース、応用生物科学コース、海洋生物環境科学コース、畜産草地科学コース、農学国際コース）

## 医学獣医学総合研究科 医学と獣医学が完全に融合した全国唯一の修士・博士研究科 <http://www.miyazaki-u.ac.jp/ijudaigakuin/>

医学獣医学総合研究科は、医学と獣医学それぞれで培われてきた教育・研究実績を踏まえて、それらを連携・融合することにより、今までは得られなかった両分野における知識、研究能力を身につけることができます。また、グローバル時代の課題である食料問題や新興・再興感染症対策を始めとする医学・獣医学にまたがる諸課題を解決できる人材を養成することも目的としています。このような教育・研究を通して、本研究科が立地する畜産基地からの要請に応えとともに、人類の健康と福祉の向上に貢献します。



- 専攻等**
- 医科学獣医科学専攻【修士課程】（生命科学研究者育成コース、高度医療関連技術・サービスイノベーション人材養成コース、生命倫理コーディネーターコース）
  - 医学獣医学専攻【博士課程】（高度臨床医育成コース、高度獣医師育成コース、研究者育成コース）

## 農学工学総合研究科 農学と工学が融合・深化した博士後期課程で最先端の研究を！ [http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/agr\\_eng/index.html](http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/agr_eng/index.html)

農学工学総合研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を行うために3専攻を設置し、融合型教育プログラムを提供しています。また、社会人として経験を活かしながら高度な技術や知識を習得しようとしている人材や外国人留学生を積極的に受け入れています。



- 専攻・コース**
- 資源環境科学専攻（環境共生科学教育コース、持続生産科学教育コース）
  - 生物機能応用科学専攻（生命機能科学教育コース、水域生物科学教育コース）
  - 物質・情報工学専攻（新材料エネルギー工学教育コース、生産工学教育コース、数理情報工学教育コース）

大学について

教育の特色

研究の特色

大学院  
学部・別科

附属施設等

学内施設  
学内組織

地域貢献

資料編  
国際交流

アクセス  
キャンパスマップ

# 学長戦略企画室

「世界を視野に 地域から始めよう」をスローガンとして掲げる本学には、グローバル社会と多様な課題を抱えている地域社会の双方を視野に入れ、「地の利」と「人の利」を活かしながら、教育研究の機能や水準を最大限に高めていくことがつねに求められています。学長戦略企画室は、大学におけるガバナンス改革の一環として平成26年4月1日に設置され、現在は機能強化推進担当副学長を室長に、副室長、室員で構成されています。同室では、IR推進センター（Center for the Promotion of Institutional Research）と連携し、学内外の様々な情報を収集・活用することによって、総合的かつ多様な視点から本学の教育研究機能の課題・特色等を分析するとともに、大学の機能強化に関わる企画を立案し、学長の意思決定のサポートを行います。



## 附属施設

### 医学部附属病院

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/hospital/>



医学部附属病院は、総病床数632床を有する宮崎県における中核的医療機関です。平成6年には特定機能病院の指定を受け、30の診療科とそれぞれの中央診療部門には、最新の医療機器と優秀な医療スタッフをそろえ、医療内容の高度化、多様化に加え、時とともに変わる疾病構造の変化にも適切に対応できる体制を整えており、病診・連携を深め、地域の医療機関からの紹介患者さんを中心に、2次医療、3次医療に取り組んでいます。また、診療のみではなく、在学生の臨床教育の場でもあり、卒後2年間の研修医としての初期臨床研修、それに続く医員並びに開業医や勤務医の生涯学習のための研修の場でもあります。



**本院の理念** ●診療、教育、研究を通して社会に貢献します。

**基本方針** ●患者さんを医療チームの一員とする良質な医療の実践 地域の要望にこたえる医療連携の推進 先端医療の開発と提供 人間性豊かな医療人の育成 お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備

### 附属図書館

<http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp/>



附属図書館は、本館（木花キャンパス）と医学分館（清武キャンパス）から構成されており、本学における知の拠点として教育・研究を支援するとともに、地域に貢献する組織として活動しています。

図書館では、学生用図書の充実、電子ジャーナルの整備、学術リポジトリの拡充、文献検索講習会の開催、ラーニングcommons等の設備充実に努めているほか、地域の方への図書館利用や県内の大学図書館、公共図書館との連携の強化を図る取組を行っています。

（なお、本館・医学分館とも現在改修工事を行っており、本館は令和2年5月頃、医学分館は令和2年1月頃リニューアルオープンの予定です。）



### 農学部附属動物病院

[https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/vet\\_hosp/index.html](https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/vet_hosp/index.html)



附属動物病院は、昭和28年の設立以来、臨床獣医学の教育研究の場および卒後研修の場として、そして地域の中核となる動物診療機関としての役割を担ってきました。平成19年度以降は専門性を備えた高度獣医療を提供する二次診療施設（地域の動物病院や診療機関から紹介を受けた動物を診療する施設）となりました。

本院は、病気を患った伴侶動物（犬、猫）はもとより、宮崎県が全国を代表する黒毛和種牛の生産地でもあることから、牛の繁殖障害、代謝障害、骨折・脱臼や膈ヘルニアなどの外科疾患も積極的に受け入れ、最新の研究成果や技術を取り入れた診療を行っています。



## 学内共同教育研究施設

### 産学・地域連携センター

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/crcweb/>



産学・地域連携センターは、本学の産学・地域連携の窓口として、研究成果から生じる知的財産を一元的に管理し、産業界のニーズ等とのマッチングによる技術移転活動を推進するほか、自治体と連携した調査研究や公開講座等の生涯学習の推進を通じて、産業や地域の振興、人づくり、まちづくりを推進しています。また、本学の高度な分析機器を集約し、学内共同利用施設として、学内外に対して研究・技術開発に必要な各種試験等を提供しています。



## 教育・学生支援センター

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/cess/>



教育・学生支援センターは、教育企画部門と学生支援部門からなり、大学教育に関わる企画事業と学生支援事業を行っています。教育企画部門は、基礎教育、専門教育から大学院教育までの大学教育の在り方に関わる研究を背景に教育方法、教育環境の改善を推進しています。学生支援部門は、課外活動、経済・生活支援及びキャリア支援、学生相談等に関する事業を通じて学生の支援を推進しています。また、学生ボランティア活動支援室や「とって元気！宮大チャレンジ・プログラム」の運営を通して、学生の主体的な活動の支援を行っています。



## フロンティア科学実験総合センター

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/frontier/>



フロンティア科学実験総合センターは「生理活性物質研究部門」「感染症研究部門」「開放系栽培研究ほ場安全管理部門」及び「実験支援部門」の4部門で構成され、先端的な生命科学研究を推進するとともに学内の教育・研究活動の支援を行っています。さらに「実験支援部門」は「生物資源分野」「遺伝資源分野」「分子形態・機能解析分野」及び「RI分野」の4分野で構成され、当該分野に関連した独自の研究も進めています。



## 国際連携センター

<http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/~kokusai/>



国際連携センターは、大学の「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、4つの柱(①学術・研究者交流、②学生交流、③国際協力・国際貢献、④地域の国際化への貢献)を推進しています。学生交流では、25の国・地域から214名の外国人留学生在が学び、日本人学生の海外留学、海外語学研修、海外ボランティアも年々増えています。当センターでは、海外の大学等との連携、留学生や留学希望者に対する学修、生活、留学相談、アドバイジング等の支援を充実するため、「国際コーディネーター」を配置するとともに、ワンストップサービスを実施しています。



## 産業動物防疫リサーチセンター

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/cadic/index.php>



産業動物防疫リサーチセンターは、宮崎県が国内有数の畜産県に立地しているという特色を踏まえ、産学官と連携して次世代・近未来型の防疫戦略を創出するため、異分野融合を軸にした研究を行っています。また、アジアを中心とする海外の大学や研究機関との連携を強化し、畜産フィールドと直結した実践的かつグローバル化時代に対応した防疫戦略の構築や産業動物防疫に関する世界水準の研究・人材育成拠点の形成を目指しています。



## 語学教育センター

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/language/>



語学教育センターは、関係部局と連携しながら、専門分野を含めた語学教育の様々なプログラムを企画・実施するとともに、語学教育方法の研究・開発を主体的に推進しています。とりわけ、海外企業、国際機関等での活躍を可能とする実践的な語学力の向上を図るための教育プログラムの実践、及び、外国人留学生の学習や生活を支える日本語教育に力を入れています。授業以外においても、学生・教職員が自由に参加できる課外語学プログラムの開講、資格試験や留学・研修に向けた語学学習についての相談、特定の専門分野のための語学教材作成、国際連携センターや地域と協力しての国内外での日本語教育支援等を積極的に行っています。



## IR推進センター

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/ircenter/>



IR (Institutional Research) とは、大学で蓄積された様々なデータを収集し、戦略的に大学運営を進めるための根拠となるデータを分析して、大学の機能強化や意思決定を支える情報戦略活動のことです。IR推進センターは、「教学」「学術」「社会貢献」「経営基盤」「認証評価」の5つの専門部会を設置し、大学の現状の可視化や評価のための資料作成など様々な場面で活用できるデータの収集・蓄積と各種分析を行っています。また、情報の流通性と付加価値の向上に取り組み、効率的な業務活動の展開を支援しています。



# 学内組織

## 安全衛生保健センター

安全衛生保健センターは、学生及び教職員の心身の健康管理を専門的にサポートするとともに、学内で発生する事故を予防し、安全で快適な教育・研究・職場環境を形成するための提言や指導を行うための施設です。急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病や心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っています。また、実験・研究中の事故を防止するための啓発活動や安全マニュアルの策定等も行っています。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/anzen/>



## 情報基盤センター

情報基盤センターは、大学全体の情報施策の立案・策定・実施・点検及び情報ネットワークや情報システム等、情報基盤の整備・更新・運用管理を行っています。また、情報資産を安全で高い信頼性をもって運用するために、サイバー攻撃に対する技術的な対策を実施するとともに運用者及び利用者への情報セキュリティ教育や技術的支援等を行っています。学内で発生した情報セキュリティ事故に対してはCSIRT（シーサート：情報セキュリティインシデント対応チーム）として迅速に対応します。

<http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/>



## 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、障がいや疾患及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける学生に対し、学内外の関係部局等と連携を図りながら、円滑な修学が可能となるよう支援しています。

◆主な業務は次のとおりです。

- ①修学支援に関するガイドラインの策定
- ②支援方法の提案・調整
- ③学生・教職員の支援の相談窓口、支援の理解、啓発活動
- ④情報の一元化・支援情報の公開
- ⑤施設設備のバリアフリー化
- ⑥各部局で行われる支援のサポート

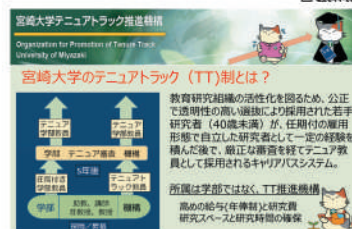
<http://www.miyazaki-u.ac.jp/accessibility/>



## テニュアトラック推進機構

テニュアトラック（TT）制とは、採用された若手研究者が5年の任期内に研究主宰者として研鑽を積んだ後、審査を経て任期がないテニュア教員として採用されるキャリアパスのことです。本学は、重点的教育研究分野の優秀な教員を育成する目的でTT推進機構を設置して現在9名の教員を擁し、既に7名の優秀な若手研究者を学部へ輩出しています。この事業への評価は高く、全国的なTT制のロールモデルとなっています。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/ttkikou/>



## 清花アテナ男女共同参画推進室

清花アテナ男女共同参画推進室は、「第2次宮崎大学男女共同参画基本計画」（平成29～33年度）に基づき、本学に在籍する教職員・学生の個性や能力の発揮、ワーク・ライフ・マネジメントの実現へ向け、さまざまな取組を行っています。平成28年度には女性研究者の育成や研究力向上のための科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」に採択され、戦略的な取組を展開しています。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/kiyohana/>



## みやざきCOC+地元定着推進室

みやざきCOC+地元定着推進室では、平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の採択を受けて、県内の大学や高等専門学校と連携し、スマホやPCで授業が受講できる「みやざき産業人材育成プログラム」の実施、「学生が企業を知る企業が学生を知る」をテーマにした「Weekly Work Cafe」の開催など、地域が求める産業人材の育成と学生の地元定着に向けた取組を推進しています。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/cocplus/>



# 学内施設

## 農学部附属農業博物館

<http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~museum/index.html>



農学部附属農業博物館は昭和10年に、宮崎高等農林学校（農学部の前身）の開校10周年記念事業として、旧船塚キャンパス（宮崎市船塚町）に設置されたことに始まります。現在の博物館は昭和61年に完成し、平成17年に博物館相当施設の指定を受けています。本館では、農・林・畜・水産業に関する資料の収集展示と大学の最新の研究とその成果を紹介しています。また、分館の講義室や実験室では、学芸員養成教育や地域の方を対象とした講座等を行っています。



## 創立330記念交流会館

宮崎大学創立330記念交流会館は平成26年に、教育学部が創立130周年、農学部が同90周年、工学部が同70周年そして医学部が同40周年の節目を迎えるに当たり、4学部の歴史（周年）を合計した330を冠した宮崎大学創立330（サンサンマル）記念事業の一環として計画されたもので、宮崎県産のスギ材を主体としたユニークな木造建築物として平成26年11月に完成しました。本会館は、学生支部や売店など学生サービスの拠点機能ほか、会議室や最大300名収容可能なホールを備え、公開講座や講演会、文化交流活動等の開催など、地域における生涯学習の振興の一助ともなり得るコミュニティセンターの機能も有しています。



## 地域デザイン棟

<http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/rdc/use/>



平成29年10月30日に宮崎大学のコアエリアに新設され、開放的でスタイリッシュなデザインと、24時間フルオープンの地域・企業・学生の交流の場として設置しました。学内外から今注目を集めるスポットです。セミナーや講義、学習のためのStudio、会議、打合せのためのMeeting Roomのほか、半屋外のExterior Hallには大型ディスプレイ広告「MIYADAI DISPLAY」を設置し、Studio内には、宮崎大学の様々な活動を紹介する「MIYADAI PREMIUM NEWS」を平成31年に新設しました。学内外問わず、自由に活用することができる産学官連携拠点施設です。



## イスラーム文化研究交流棟

イスラーム文化研究交流棟は本学の国際化を推進する戦略の一環として、平成26年に整備された施設です。宮崎大学のグローバル化（急速に経済発展するイスラーム圏からの優秀な外国人留学生の受入推進）及び宮崎県が掲げるフードビジネス推進の一助として、イスラーム圏を対象としたハラル食品並びにイスラーム文化の研究、イスラーム圏との貿易促進等に必要の情報交換及び文化交流が行われています。



## まちなかキャンパス

<http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/facilities/related-facility/machinaka-campus.html>



地域課題の解決にむけた取組をより一層推進することを目的に、地域連携活動の拠点及びまちおこしのフィールドとして、平成29年2月に若草通りアーケード内に設置しました。また、県内の11高等教育機関で構成する「高等教育コンソーシアム宮崎」の事務局分室も設置しており、高校生が県内高等教育機関の入試情報などを得ることができるほか、大学生や企業関係者が交流する拠点としても活用されています。



## 日南デスク

まちなかキャンパス同様に、地域課題の解決にむけた取組をより一層推進することを目的として、平成29年6月に日南市創客創人センター内に設置しました。日南市内の高校生が簡単に宮崎大学の入試情報などを入手できるほか、本学教職員が外向いて公開講座を実施するなど、県南在住の方に幅広く学びの場を提供しています。



# 地域貢献（産学官連携・地域連携）

## 公開講座等の生涯学習の推進

公開講座や青少年の科学教室等を通して、あらゆる世代の多様な要請に応える教育環境を整え、地域社会の持続的な発展に貢献することを目的に、年間40講座以上を実施しています。



公開講座「まちなかカレッジ」

## 地域との連携事業

県内市町村等と連携・協力に関する包括協定を締結し、地域の特色を生かした地域活性化事業を様々なアプローチから実施し、地域の振興に貢献しています。



「門川の魚図鑑」

## 高等教育コンソーシアム宮崎

県内11の高等教育機関が相互に連携した「高等教育コンソーシアム宮崎」の基幹大学として、学生インターゼミナール、就職支援、単位互換、合同FD研修会、公募型卒業研究テーマ、各種インターンシップ事業などを実施しています。



公募による卒業研究テーマ発表会

## 中学・高校等との連携事業

教育委員会と連携した高校生向けの「宮崎サイエンスキャンプ」や「サイエンスコンクール」、中学生向けの「ワールドキャンプ」や「宮崎大学訪問研修」などの特色ある取組を実施しています。



「ワールドキャンプin小林」の様子

## 地域住民に対する施設等の開放

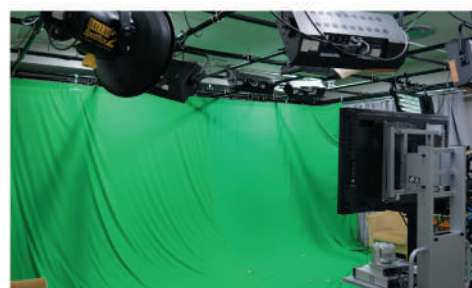
みやだいWakuWaku体験Dayを開催したり、附属図書館や農学部附属農業博物館、体育施設等を地域住民に対し開放しており、ホームページからも利用案内や予定表などが閲覧できるようになっています。今後も、地域住民の利用促進を図り、引き続き、施設等の開放を積極的に進めていきます。



みやだいWakuWaku体験Dayの様子

## 遠隔教育、情報提供の推進

宮崎健康福祉ネットワーク（はにわネット）等を活用した遠隔医療、遠隔教育等を実施しているほか、学内に宮大公式Youtubeチャンネル（Myaoh.TV）を開設し、地域への情報発信を積極的に行っています。このほか、まちなかキャンパスや宮崎科学技術館のデジタルサイネージで本学の教育・研究の成果やイベント情報等を発信しています。



Myaoh.TV スタジオ

## 産学官連携推進事業

産学官連携によるイノベーションの創出を目指し、「技術・研究発表交流会」や「マッチングのためのラウンドテーブル」など、年間を通じて教員と企業等を結ぶ様々なマッチング活動を行っています。



「マッチングのためのラウンドテーブル」の様子

## 知的財産に係る技術移転及び実用化の推進

本学で創出された知的財産を社会に還元するため、各種イベントへの出展や九州産業界等と連携したGAPファンド参画などを通じて、技術移転、実用化、大学発ベンチャーの創出を推進しています。



Bio Japanでの技術紹介

## 高度な分析機器の利用による研究支援

高度な分析機器を産学・地域連携センター機器分析支援施設に集約し、学内共同利用施設として、学内外に対して研究・技術開発に必要な各種試験等を提供しています。



平成28年8月 県内試験研究機関と「みやざきファシリティネットワーク」を設立

## 地域デザイン講座

平成29年4月に米良電機産業株式会社（宮崎市）の寄附により設置しています。『発想のまち～新たな発見、そして応用・飛躍に繋げる場～』をコンセプトに、地域デザイン棟を拠点として地域・企業・大学・学生の情報交流、学び直しの場の提供などを行っています。（本棟は365日24時間オープン）



地域デザイン棟前

## 大学発ベンチャー企業の育成及び支援

本学との共同研究などにより創出された成果を基にベンチャー企業を立ち上げた場合、一定期間、研究室を低廉で使用できる支援等を行っています。



ブルーベリー葉茶の商品化  
～(株)なな葉コーポレーション～

## 宮崎大学ビジネスプランコンテスト

全学生が挑戦できる場として、自身の想いを形にして他人に伝える力、起業家精神の教育に力点を置く「宮崎大学ビジネスプランコンテスト」を、宮崎銀行との連携により実施しています。第1回目の参加学生から「文部科学大臣賞」受賞者が出るなど、注目される取組です。



第2回最終プレゼンテーション出場者の皆さま

# 国際交流

宮崎大学では、文部科学省、日本学術振興会、国際協力機構（JICA）及び各種機関の助成等により、年間約500人もの研究者が海外に派遣されており、外国人研修員等も積極的に受け入れています。また、研究者だけでなく、25カ国から国費・私費・外国政府派遣の留学生214名を受け入れ、グローバルな学習環境のもとで、未来を担う人材の育成に努めています。

## 学術・学生交流協定

全学的・戦略的な学術交流・学生交流を推進するため、東南アジアを中心として、116の国や地域の大学等と交流協定を締結しています。うち、87大学とは学生交流覚書を締結し、活発な学生交流を図っています。

### 学生相互交流①：大学間交流協定校

大学間交流協定校であるベトナムのベトナム国立農業大学、中国の南京農業大学、台湾の東呉大学との間で1～2週間程度のプログラムによる学生交流を実施しています。



### 学生相互交流②：部局間交流協定校

医学部とタイのプリンスオブソンクラ大学、中国の上海交通大学医学院、台湾の国立成功大学医学院並びにイタリアのカリアリ大学および温州医科大学との間で、医学部のスタッフや学生を対象にした1～3ヶ月間の研修プログラムを実施しています。



## 留学生・研究者の受け入れ

JICA等と連携し、外国人留学生の受け入れを積極的に行っています。農学研究科修士課程では、「アフガニスタン未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト(通称：PEACEプロジェクト)」において、これまで30名以上のアフガニスタン学生を受け入れており、農学分野における実績は、国内トップです。また、工学研究科修士課程においては、ミャンマーやインドネシアの大学とのダブルディグリープログラムを実施するなど特色ある教育を行っています。さらに、年間を通じて、短期留学生の受け入れプログラムも多数実施しています。

### サマープログラム・ウィンタープログラム

毎年7月に3週間のサマープログラム、1月に2週間のウィンタープログラムを実施しています。本学を広く海外に発信し、優秀な留学生や研究者を大学に呼び込むことを目的としており、毎年50名程度の短期留学生の受け入れを行っています。



### さくらサイエンスプラン

平成26年度から始まった科学技術振興機構（JST）の本事業においては、ミャンマー、モンゴル、ベトナム、タイ、中国、インド、インドネシア、韓国、スリランカから635名を招聘し、10日～3週間程度の研修を行っています。本事業の採択件数は、国公私立大学の中でトップクラスです。



## 学生・研究者の海外派遣

学生交流覚書を締結している大学に学生を派遣しています。協定による留学は、休学の必要がなく留学先の大学の授業料等は免除されます。さらに、留学先で取得した単位を本学の単位とすることができます。また、文部科学省の「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」や、JICAの「草の根技術協力事業」等を積極的に活用し、学生や若手研究者を多く海外に派遣しています。

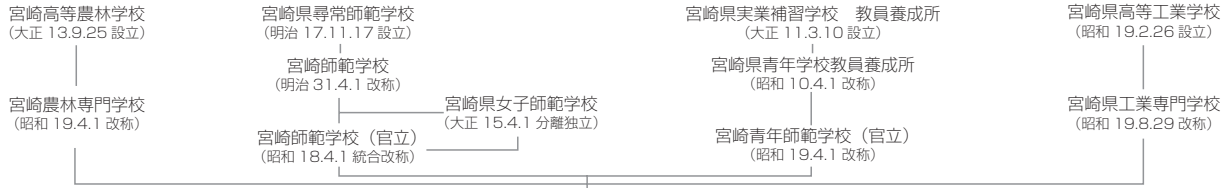


# 資料編

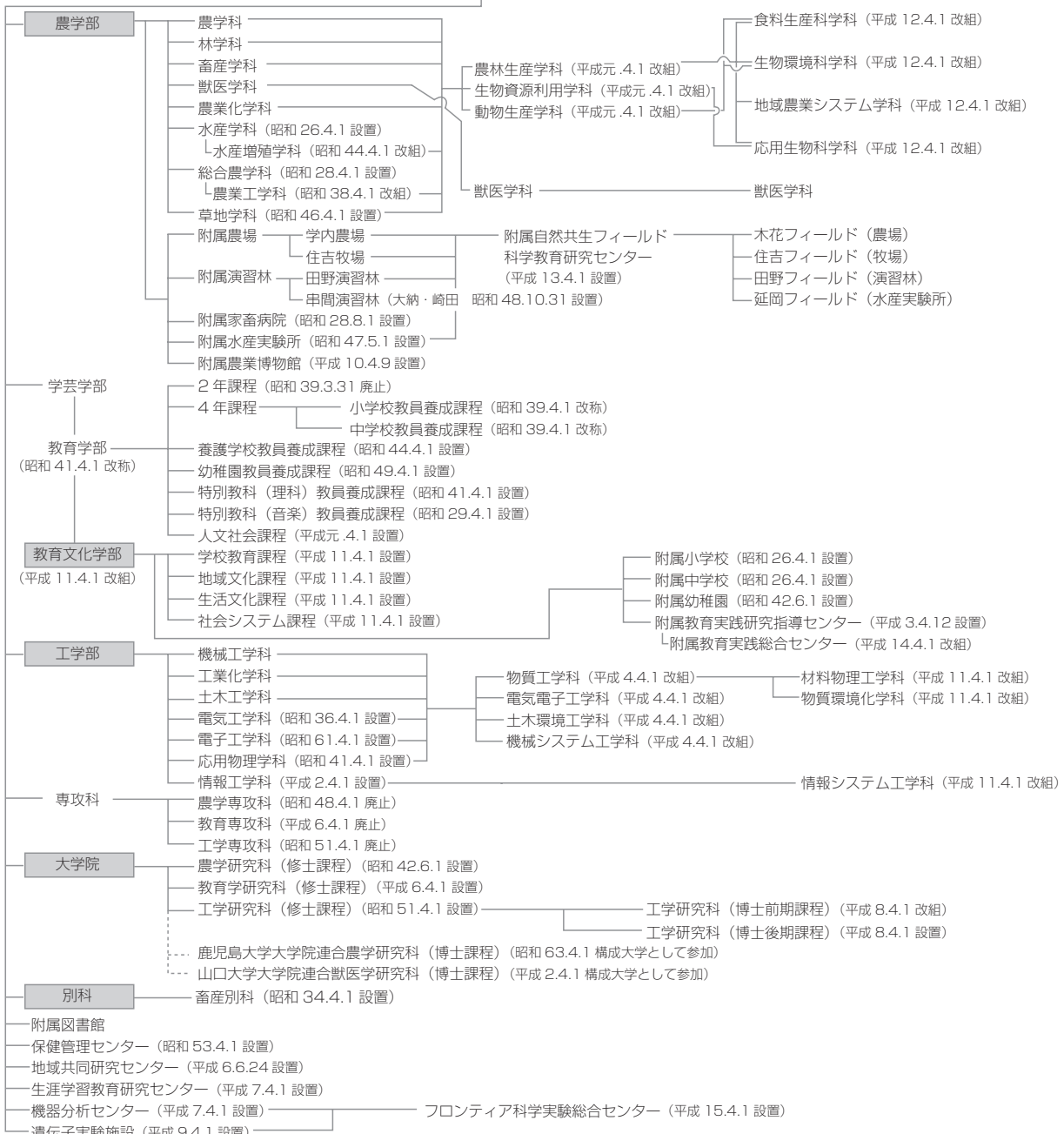
## 資料編 CONTENTS

沿革	17
沿革[年表]	19
機構図	23
役職員	24
職員数	25
歴代学長	25
学部	26
大学院・寄附講座	27
附属図書館	28
医学部附属病院	29
学生・生徒・児童及び園児数	30
平成31年度入学状況	33
卒業生・修了者数	35
博士の学位授与者数	36
平成30年度就職状況	37
奨学生状況	38
国際交流	39
連携協定機関	42
平成30年度公開講座実施状況	43
平成30年度経理状況	44
学生関係施設	46
土地・建物	47
施設所在地	48

# 沿革

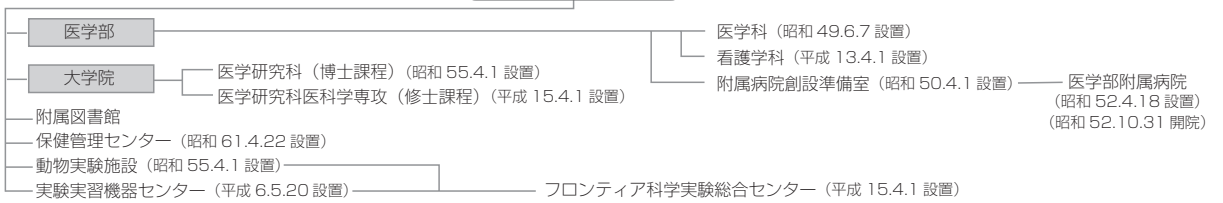


## 旧宮崎大学 (昭和 24.5.31 設置)

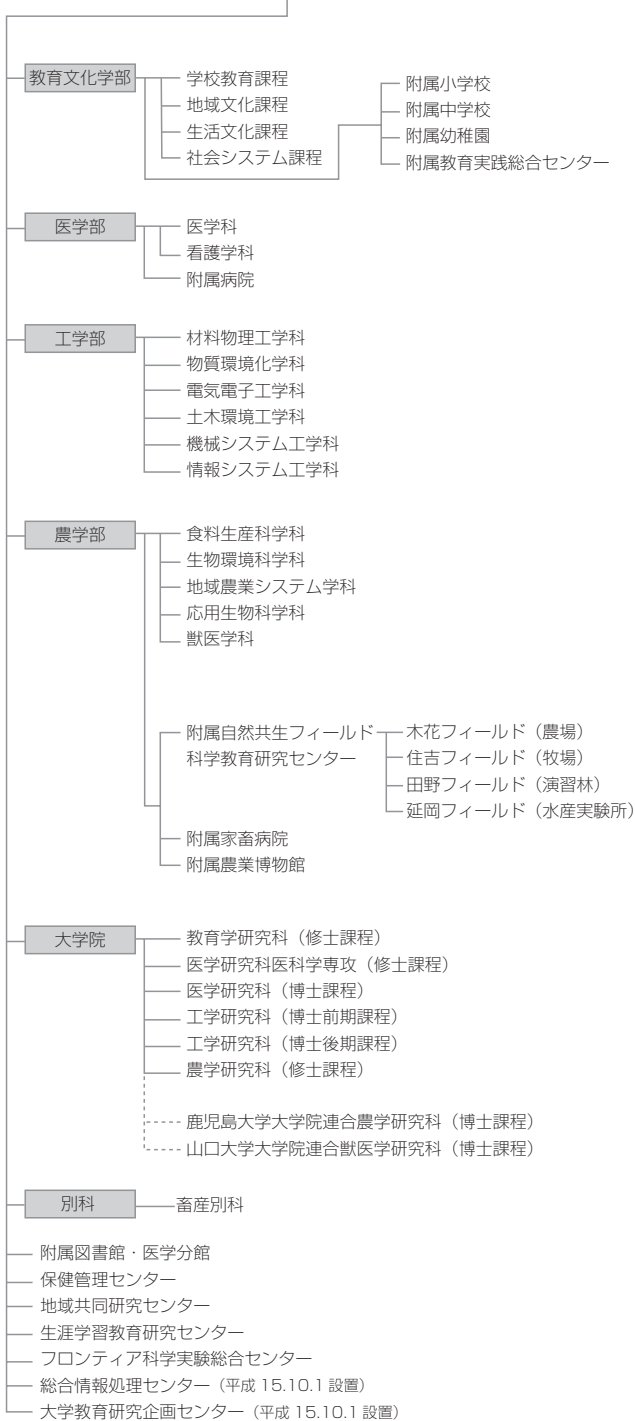


## 国立医科大学 (宮崎県) 創設準備室 (昭和 48.10.1 設置)

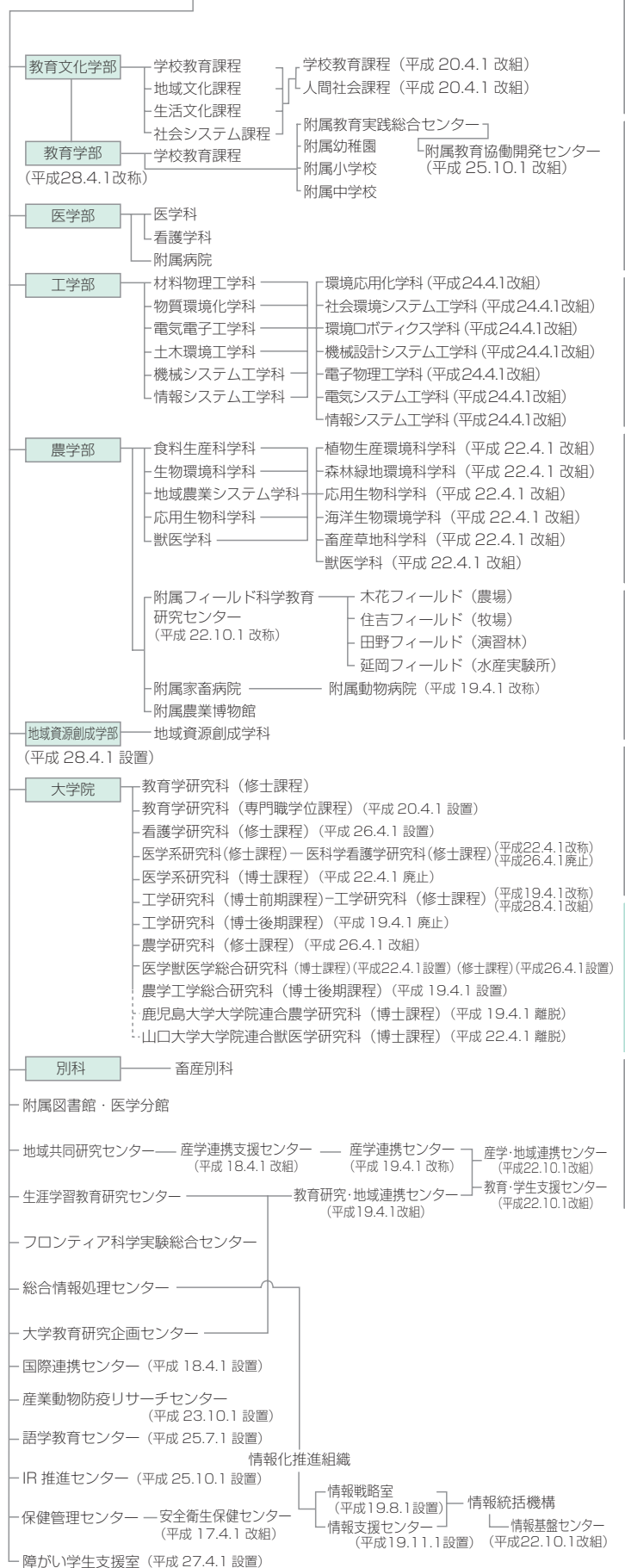
## 宮崎医科大学 (昭和 49.6.7 設置)



新宮崎大学 (平成 15.10.1 統合)



国立大学法人宮崎大学 (平成 16.4.1 法人化)



大学について

教育の特色

研究の特色

学部・別科

附属施設等

学内施設

学内組織

地域貢献

資料編

キャンパス

アクセス

マップ

# 沿革 [年表]

年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
S24. 5.31	宮崎大学（農学部、学芸学部、工学部）の設置	
7.18	第1回入学式挙行、授業開始	
S26. 4. 1	学芸学部附属小学校及び附属中学校を設置 農学部水産学科を設置	
S28. 3. 8	開学記念式典挙行	
3.10	第1回卒業式挙行	
4. 1	農学部総合農学科を設置	
8. 1	農学部附属家畜病院を設置	
S29. 4. 1	学芸学部特別教科（音楽）教員養成課程を設置	
S31. 4. 1	農学専攻科を設置し、修業期間を1年とした	
S34. 4. 1	学芸専攻科、工業専攻科及び別科（畜産別科）を設置し、それぞれ修業期間を1年とした	
S36. 4. 1	工学部電気工学科を設置	
S38. 4. 1	農学部総合農学科を改組し、農業工学科を設置	
S39. 3.31	学芸学部2年課程を廃止	
4. 1	学芸学部4年課程第一部及び第二部をそれぞれ小学校教員養成課程及び中学校教員養成課程に改称	
S41. 4. 1	学芸学部を教育学部に改称 教育学部に特別教科（理科）教員養成課程、工学部に応用物理学科を設置	
S42. 6. 1	大学院農学研究科（修士課程）を設置 教育学部附属幼稚園を設置	
S44. 4. 1	農学部水産学科を改組し、水産増殖学科を設置 教育学部養護学校教員養成課程を設置	
S46. 4. 1	農学部草地学科を設置	
S47. 5. 1	農学部附属水産実験所を設置	
S48. 4. 1	農学専攻科を廃止	
10. 1		宮崎大学に「国立医科大学（宮崎県）創設準備室」を設置
10.31	串間演習林（大納・崎田）を設置	
S49. 4. 1	教育学部幼稚園教員養成課程を設置	
6. 7		宮崎医科大学の設置 (国立医科大学（宮崎県）創設準備室を廃止)
7. 4		第1回入学式挙行
7.29		開学記念式典挙行
S50. 4. 1		附属病院創設準備室を設置
S51. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を設置 工学専攻科を廃止	
S52. 4.18		医学部附属病院を設置（附属病院創設準備室を廃止）
10.29		宮崎医科大学竣工・医学部附属病院開院記念祝典挙行
10.31		医学部附属病院開院（320床）
S53. 4. 1	保健管理センターを設置	
S54. 2. 7		医学部附属病院の病床が120床増床される（計440床）
5.31	宮崎大学創立30周年記念式典挙行	
6. 1		医学部附属病院の病床が160床増床される（計600床）
8.10	文部省、宮崎大学の移転統合を正式に認可	
12.27	農学部農業博物館を博物館相当施設として指定（文部省告示）	
S55. 3.25		第1回卒業式挙行

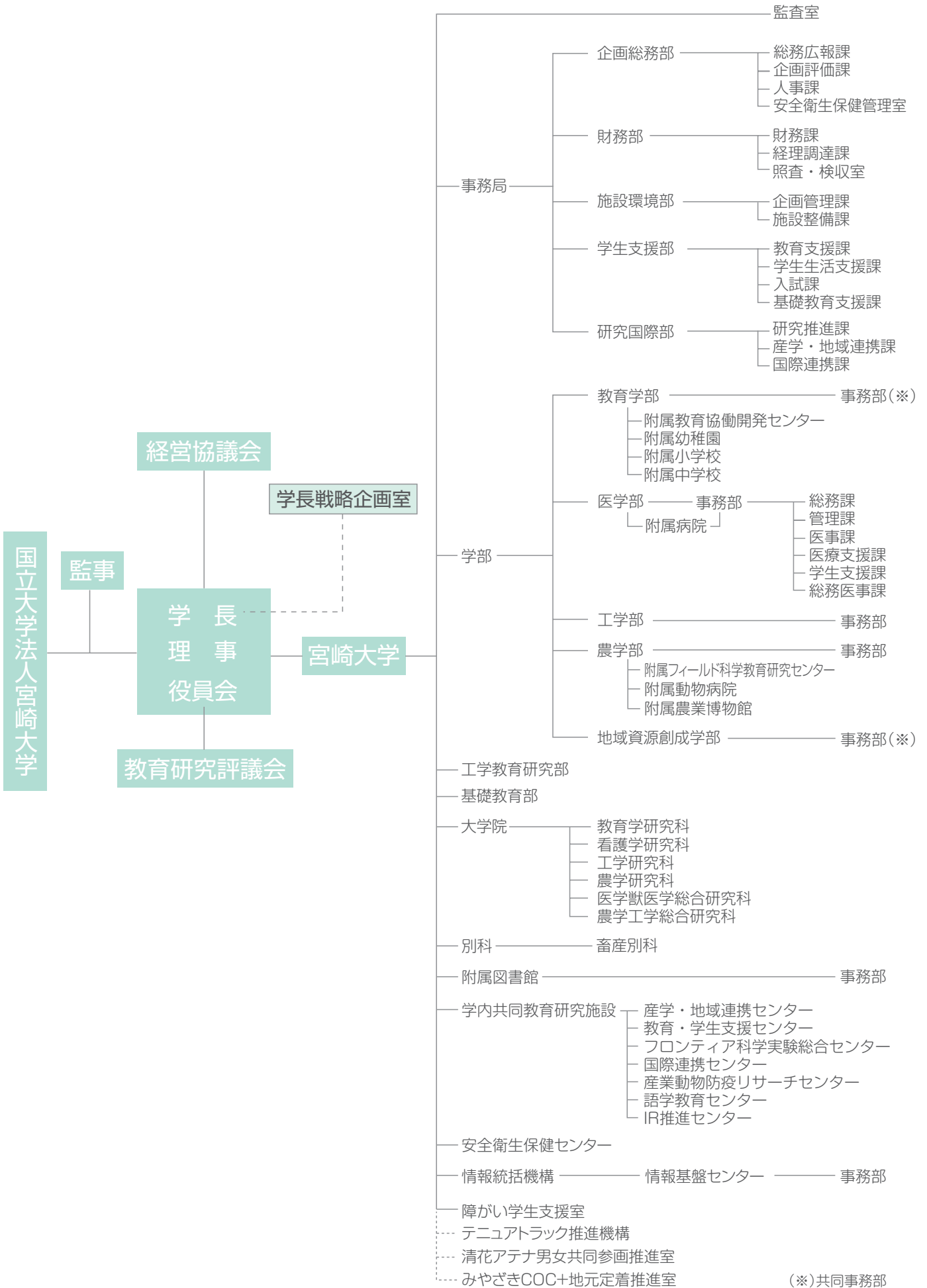
年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
S55. 4. 1		大学院医学研究科（博士課程）を設置 医学部附属動物実験施設を設置
S59. 6. 7		宮崎医科大学開学 10 周年記念式典挙行
11.19	農学部第 1 次移転完了	
S60. 1.24	農学部第 2 次移転完了	
S61. 3.18	事務局の移転完了	
3.31	学生部及び保健管理センターの移転完了	
4. 1	工学部電子工学科を設置	
4.22		保健管理センターを設置
5.23	事務局・学生部移転記念式典挙行	
9.13	工学部及び計算機・分析両センターの移転完了	
S62. 8.31	附属図書館の移転完了	
10.31		医学部附属病院開院 10 周年記念式典挙行
S63. 4. 1	鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
5.25		医学部附属病院輸血部を設置
9. 7	教育学部の移転完了	
H元. 4. 1	農学部改組 教育学部人文社会課程を設置	
10. 1	計算機センターを情報処理センターに改称	
11.11	移転完了記念式典・祝賀会挙行	
H 2. 4. 1	工学部情報工学科を設置 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
6. 8		医学部附属病院救急部を設置
H 3. 4.12	教育学部附属教育実践研究指導センターを設置	
H 4. 4. 1	工学部改組 地域交流センター（学内措置）を設置（後に地域共同研究センター、生涯学習教育研究センターへ改組）	
4.10		医学部附属病院集中治療部を設置
H 6. 4. 1	大学院教育学研究科（修士課程）を設置 教育専攻科を廃止	
5.20		医学部附属実験実習機器センターを設置 医学部附属病院医療情報部を設置
6.24	地域共同研究センターを設置	
10. 1		特定機能病院として承認
10.29		宮崎医科大学開学 20 周年記念式典挙行
H 7. 4. 1	生涯学習教育研究センター及び機器分析センターを設置 分析センター廃止	
H 8. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を改組し、大学院工学研究科（博士前期課程）を設置 大学院工学研究科（博士後期課程）を設置	医学部附属病院周産母子センターを設置
H 9. 4. 1	遺伝子実験施設を設置	
11.14		医学部附属病院開院 20 周年記念式典挙行
H10. 4. 1		医学部附属病院病理部を設置
4. 9	農学部附属農業博物館を設置	
H11. 4. 1	教育学部を改組し、教育文化学部へ改称 工学部改組	情報処理センターを設置

年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
H11. 5.28	宮崎大学創立 50 周年記念式典挙行	
H12. 4. 1	農学部改組	医学部附属病院光学医療診療部を設置
H13. 4. 1	附属農場、附属演習林及び附属水産実験所を統合して、農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを設置	医学部看護学科を設置
6. 5		医学部看護学科開設記念式典挙行
12.14	総合研究棟を新築	
H14. 4. 1	教育文化学部附属教育実践研究指導センターを附属教育実践総合センターに改組	医学部附属病院リハビリテーション部を設置
H15. 2.17		病院機能評価認定
4. 1	フロンティア科学実験総合センターを設置 (機器分析センター、遺伝子実験施設、アイソトープセンターを廃止)	大学院医学研究科医科学専攻(修士課程)を設置 フロンティア科学実験総合センターを設置 (動物実験施設、実験実習機器センターを廃止)

年月日	宮崎大学
H15.10. 1	旧宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、新「宮崎大学」を設置 大学教育研究企画センター及び総合情報処理センターを設置 情報処理センターを廃止
H16. 3.26	サテライト・オフィスを宮崎市中心部(カリーノ宮崎8階ガガエイト)に設置 総合教育研究棟を新築(清武キャンパス)
4. 1	国立大学の法人化に伴い、法人の設置する宮崎大学となる
H17. 4. 1	保健管理センターを改組し、安全衛生保健センターを設置 大学院医学研究科を医学系研究科に改称し、看護学専攻(修士課程)を設置
H18. 4. 1	地域共同研究センターを改組し、産学連携支援センターを設置 国際連携センターを設置 医学部附属病院再整備開始
H19. 4. 1	大学院工学研究科(博士後期課程)を廃止し、農学工学総合研究科(博士後期課程)を設置 鹿児島大学大学院連合農学研究科(博士課程)から農学部が離脱 大学院工学研究科(博士前期課程)を大学院工学研究科(修士課程)に改称 生涯学習教育研究センターと大学教育研究企画センターを統合し、教育研究・地域連携センターを設置 産学連携支援センターを産学連携センターに改称 農学部附属家畜病院を農学部附属動物病院に改称 宮崎大学くすの木保育園を開園
8. 1	情報戦略室を設置
11. 1	総合情報処理センターを廃止し、情報支援センターを設置
12.26	医学部附属病院橘通歯科口腔外科クリニックを設置
H20. 2. 8	都道府県がん診療連携拠点病院に指定
4. 1	大学院教育学研究科(専門職学位課程)を設置 教育文化学部を改組 大学院医学系研究科(博士課程)を改組 医学部附属病院周産母子センターを改組し、医学部附属病院総合周産期母子医療センターを設置
11.15	木花キャンパス移転 20 周年記念事業挙行
H21. 4. 1	医学科入学定員を 5 名増加(入学定員 105 名)
7.24	肝疾患診療連携拠点病院に指定
H22. 4. 1	大学院医学系研究科(博士課程)を廃止し、医学獣医学総合研究科(博士課程)を設置 大学院医学系研究科(修士課程)を医科学看護学研究科(修士課程)に改称 地域医療学講座設置 山口大学大学院連合獣医学研究科(博士課程)から離脱 農学部を改組 医学科入学定員を 5 名増加(入学定員 110 名)

年月日	宮崎大学
H22. 5. 6	医学部附属病院新外来診療棟で診療を開始
8. 4	サテライト・オフィスを宮崎市中心部（橘通西3丁目MCCビル1階）に移転
10. 1	産学連携センター及び教育研究・地域連携センターを改組し、産学・地域連携センター及び教育・学生支援センターを設置 情報戦略室と情報支援センターを統合し、情報基盤センターを設置 農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを農学部附属フィールド科学教育研究センターに改称
H23.10. 1	産業動物防疫リサーチセンターを設置 医学部附属病院地域総合医育成センターを設置
H24. 2. 1	医学部血液・血管先端医療学講座を設置
3.21	医学部血液・血管先端医療学講座の県北拠点を宮崎県立延岡病院に設置
4. 1	工学部を改組 医学部附属病院救命救急センターを設置
4.18	医学部附属病院において、ドクターヘリの運航を開始
H25. 3. 1	医学部附属病院救命救急センター棟を設置
3.31	医学部附属病院再整備完了
4. 1	医学部附属病院地域総合医育成サテライトセンターを宮崎県立日南病院内に設置
7. 1	語学教育センターを設置
10. 1	IR推進センターを設置 教育文化学部附属教育実践総合開発センターを改組し、教育文化学部附属教育協働開発センターを設置
10.19	創立330記念事業統合10周年記念講演会・式典・祝賀会を開催
11.21	産業動物教育研究センターを設置
H26. 4. 1	大学院医科学看護学研究科（修士課程）を廃止し、看護学研究科（修士課程）及び医学獣医学総合研究科（修士課程）を設置 大学院農学研究科（修士課程）を改組 地域医療学講座を地域医療・総合診療医学講座に改称
4.14	医学部附属病院において、ドクターカーの運行を開始
11. 8	創立330記念事業（落成式、記念式典・祝賀会）を開催
H27. 4. 1	障がい学生支援室を設置 宮崎市立田野病院及び宮崎市介護老人保健施設さざんか苑の指定管理運営を開始 宮崎大学医学部附属病院コミュニティ・メディカルセンターを開設
9. 1	医学部消化器内科学講座を設置
10. 1	医療人育成支援センターを設置
H28. 4. 1	地域資源創成学部を設置 教育文化学部を教育学部に改称 大学院工学研究科（修士課程）を改組
H29. 2. 1	サテライト・オフィスを廃止し、宮崎大学まちなかキャンパスを宮崎市中心部（橘通東3丁目村武ビル1階）に設置
4. 1	産学・地域連携センター地域デザイン講座を設置
H30.10. 1	農学部 MIYADAI TAIYO Aoifarm Lab（共同研究講座）を設置 医学部宮崎小児地域医療学・次世代育成支援講座を設置
12. 1	医学部消化器内科学講座を内科学講座消化器内科学分野に再編

# 機構図





# 役員

学長		池ノ上 克	◎●○
理事	副学長 (研究・企画担当)	水光 正仁	◎●○
	副学長 (教育・学生担当)	新地 辰朗	◎●○
	医学部附属病院長 (病院担当)	鮫島 浩	◎●○
	事務局長 (総務担当)	迫田浩一郎	◎●○
	副学長 (女性活躍・人財育成担当)	伊達 紫	◎●○
	法務担当	日野 直彦	◎
学長特別補佐	IR推進センター特別教授	村上 昇	
	医学部教授	丸山 眞杉	
副学長	(目標・評価担当)	酒井 剛	○
	(入試担当)	中林 健一	○
	(産学・地域連携担当)	國武 久登	○
	(国際連携担当)	村上 啓介	○
	(機能強化推進担当)	明石 良	○
監事		成合 修 肥田木良博	
経営協議会 学外委員	ANAホールディングス株式会社 取締役会長	伊東信一郎	●
	(公社)宮崎県医師会会長	河野 雅行	●
	前九州保健福祉大学副学長	坂 佳代子	●
	(株)宮崎銀行代表取締役頭取	平野 亘也	●
	(株)宮崎日日新聞代表取締役社長	町川 安久	●
	元旭化成(株)取締役兼常務執行役員	水永 正憲	●
	(社)宮崎県商工会議所連合会会長	米良 充典	●
教育研究 評議会評議員	教育学部教授	三輪 佳見	○
	医学部教授	賀本 敏行	○
	工学教育研究部教授	鈴木 祥広	○
	農学部教授	池田 正浩	○
	地域資源創成学部教授	桑野 齊	○
学長顧問	前宮崎大学長	菅沼 龍夫	
	前宮崎大学副学長(国際連携担当)	伊丹 利明	
事務局	学長戦略企画室長	明石 良	
	監査室長	尾崎 政彦	
	企画総務部長	島根 亨	
	総務広報課長	山里 里美	
	企画評価課長	那加野知明	
	人事課長	有馬 定昭	
	安全衛生保健管理室長事務代理	島根 亨	
	財務部長	飯嶋 浩恭	
	財務課長	山里 善彦	
	経理調達課長	東郷 博史	
	照査・検収室長役	児玉 秀樹	
	施設環境部長	岡野 公嘉	
	企画管理課長	高崎 敏郎	
	施設整備課長	西谷 陽二	
	学生支援部長	小松 圭二	
	教育支援課長	佐藤 俊一	
	学生生活支援課長	鷹取 あき	
	入試課長	中原 敏男	
	基礎教育支援課長	原 典子	

役員会委員	◎印		
経営協議会委員	●印		
教育研究評議会評議員	○印		
			(令和元年7月1日現在)
	研究国際部長	都築 智	
	研究推進課長	勝股 靖貴	
	産学・地域連携課長	今屋敷哲也	
	国際連携課長	川越 真	
教育学部	学部長	藤井 良宜	○
	附属教育協働開発センター長	吉村 功太郎	
	附属学校園統括長	添田 佳伸	
	附属幼稚園長	土屋 貴代	
	附属小学校長	日高 和広	
	附属中学校長	山下 辰弥	
	教育学部・地域資源創成学部事務長	坂元 博巳	
医学部	学部長	片岡 寛章	○
	附属病院長	鮫島 浩	
	事務部長	龍元 裕貴	
	総務課長	佐藤 貴紀	
	管理課長	今村 浩樹	
	医療支援課長	久田 雄司	
	医事課長	平田 勝夫	
	学生支援課長	大野 えり	
	総務医事課長	長友 俊郎	
		コミュニティ・メディカルセンター長	近藤 千博
工学部	学部長	横田 光広	○
	事務長	黒木 大助	
農学部	学部長	酒井 正博	○
	附属フィールド科学教育研究センター長	高木 正博	
	附属動物病院長	鳥巢 至道	
	附属農業博物館長	宇田津徹朗	
	事務長	内田 成人	
地域資源創成学部	学部長	入谷 貴夫	○
工学教育研究部	部長(併)	横田 光広	
基礎教育部	部長(併)	秋山 博臣	○
教育学研究科	研究科長(併)	幸 秀樹	○
看護学研究科	研究科長(併)	金子 政時	○
工学研究科	研究科長(併)	横田 光広	
農学研究科	研究科長(併)	酒井 正博	
医学獣医学総合研究科	研究科長(併)	浅田祐士郎	○
農学工学総合研究科	研究科長(併)	西脇 亜也	○
附属図書館	館長(併)	新地 辰朗	
	事務長	福本 久幸	
産学地域連携センター	センター長(併)	國武 久登	○
教育学生支援センター	センター長(併)	新地 辰朗	
フロンティア科学 実験総合センター	センター長(併)	加藤 丈司	○
国際連携センター	センター長(併)	村上 啓介	
産業動物防疫 リサーチセンター	センター長(併)	三澤 尚明	○
語学教育センター	センター長(併)	新地 辰朗	
IR推進センター	センター長(併)	明石 良	
安全衛生保健センター	センター長(併)	石田 康	
情報基盤センター	センター長(併)	廿日出 勇	
	事務長	林 健一郎	
障がい学生支援室	室長(併)	新地 辰朗	
みやざきCOC+ 地元定着推進室	室長	出口 近士	

大学について

教育の特色

研究の特色

大学院  
学部・別科

附属施設等

学内施設  
学内組織

地域貢献

資料編

アクセス  
キャンパスマップ

# 職員数

(令和元年5月1日現在)

区分	学長	監事	理事	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	附属学 校教員	事務局 等職員	合計
部局等												
学長	1											1
監事		(1) 2										(1) 2
理事			(1) 6									(1) 6
事務局									0		176	176
教育学部				23	22	10			55		14	85
教育学研究科				9	7				16			
附属幼稚園									0	7		
附属小学校									0	29	3	67
附属中学校									0	28		
医学部				52	32	16	101	5	206		202	408
附属病院				5	10	32	114		161		977	1,138
工学部									0		34	34
工学教育研究部				40	32		18		90			90
農学部				45	37	2	20	1	105		20	125
附属フィールド科学教育研究センター				3	1	2			6		20	26
附属動物病院				2			3		5		5	10
附属農業博物館				1					1			1
地域資源創成学部				10	14	4			28		4	32
附属図書館									0		10	10
テニユアトラック推進機構					2	2	5		9			9
産学・地域連携センター				1	6		3		10			10
教育・学生支援センター				1	2				3		1	4
フロンティア科学実験総合センター				3	4		2		9		9	18
国際連携センター					2	1	3		6		1	7
産業動物防疫リサーチセンター				4			1		5			5
語学教育センター				2	7	2			11			11
安全衛生保健センター				1		2			3		3	6
情報基盤センター					1		1		2		9	11
障がい学生支援室					1			1	2			2
IR推進センター				1	1				2			2
みやざきCOC+地元定着推進室				1					1			1
基礎教育部							1		1			1
計	1	(1) 2	(1) 6	204	181	73	272	7	737	64	1,488	(2) 2,298

※常勤職員数(ただし、監事(1)・理事(1)については、非常勤で内数)

# 歴代学長

旧宮崎大学			宮崎医科大学		
氏名	在任期間	備考	氏名	在任期間	備考
高橋 隆道	S24. 5.31 ~ S27. 7.25		勝木 司馬之助	S49. 6. 7 ~ S55. 6.30	
杉原 清一	S27. 7.26 ~ S28. 8. 1	(事務取扱)	玉井 達二	S55. 7. 1 ~ S61. 3.31	
栗原 一男	S28. 8. 1 ~ S32. 7.31		常俊 義三	S61. 4. 1 ~ S61. 5.31	(事務取扱)
甲斐 三郎	S32. 8. 1 ~ S38. 7.31		岡本 直正	S61. 6. 1 ~ H 2. 3.31	
岩村 岳	S38. 8. 1 ~ S42. 7.31		木下 和夫	H 2. 4. 1 ~ H 8. 3.31	
廣田 輝雄	S42. 8. 1 ~ S46. 7.31		森満 保	H 8. 4. 1 ~ H14. 3.31	
外山 三郎	S46. 8. 1 ~ S50. 7.31		松尾 壽之	H14. 4. 1 ~ H15. 9.30	
井上 由扶	S50. 8. 1 ~ S56. 7.31				
三善 正市	S56. 8. 1 ~ S58.10.16				
木村 正雄	S58.10.16 ~ S58.11.30	(事務取扱)			
遠藤 尚	S58.12. 1 ~ H元.11.30				
池田 一	H元.12. 1 ~ H 7.11.30				
二神 光次	H 7.12. 1 ~ H13.11.30				
藤原 宏志	H13.12. 1 ~ H15. 9.30				
宮崎大学					
	住吉 昭信	H15.10.1 ~ H21.9.30			
	菅沼 龍夫	H21.10.1 ~ H27.9.30			
	池ノ上 克	H27.10.1 ~ R 3.9.30			

# 学部

## 学 部

学部	学科・課程	講座・コース
教 育 学 部	学 校 教 育 課 程	小中一貫教育コース
		教職実践基礎コース
		発達支援教育コース
医 学 部	医 学 科	基礎系医学講座 解剖学（組織細胞化学，超微形態科学，医学生物学） 機能制御学（統合生理学，応用生理学，腫瘍生化学，機能生化学，薬理学，心理学，物理科学，物質科学，蛋白質機能学） 病理学（構造機能病態学，腫瘍・再生病態学） 感染症学（微生物学，寄生虫学，免疫学） 社会医学（公衆衛生学，法医学，生命・医療倫理学，医療社会学，研究の倫理と政策学，データマネジメント，数理科学，英語，ドイツ語）  臨床系医学講座 内科学（循環体液制御学，消化器血液学，神経呼吸内分泌代謝学，免疫感染病態学，消化器内科学） 外科学（肝胆膵外科学，消化管・内分泌・小児外科学，心臓血管外科学，呼吸器・乳腺外科学，形成外科学） 臨床神経科学（精神医学，脳神経外科学） 発達泌尿生殖医学講座（小児科学，泌尿器科学，産婦人科学） 感覚運動医学（整形外科学，皮膚科学，眼科学，耳鼻咽喉・頭頸部外科学，顎顔面口腔外科学） 病態解析医学（放射線医学，麻酔生体管理学，救急・災害医学）
	看 護 学 科	基礎看護学講座，成人・老年看護学講座，小児・母性（助産専攻）看護学講座，地域・精神看護学講座
工 学 部	環 境 応 用 化 学 科	
	社会環境システム工学科	
	環境ロボティクス学科	
	機械設計システム工学科	
	電子物理工学科	
	電気システム工学科	
農 学 部	情 報 シ ス テ ム 工 学 科	
	植 物 生 産 環 境 科 学 科	
	森 林 緑 地 環 境 科 学 科	
	応 用 生 物 科 学 科	
	海 洋 生 物 環 境 学 科	
	畜 産 草 地 科 学 科	
地 域 資 源 創 成 学 部	獣 医 学 科	
	地 域 資 源 創 成 学 科	企業マネジメントコース
		地域産業創出コース
地域創造コース		

大学について

教育の特色

研究の特色

学部・別科  
大学院

附属施設等

学内施設  
学内組織

地域貢献

資料編

キャンパス  
アクセス  
マップ

# 大学院・寄附講座

## 大学院

研究科	専攻	専修・分野・部門・講座・領域・コース
教育学研究科 (修士課程)	学校教育支援専攻	教育臨床心理専修, 日本語支援教育専修
教育学研究科 (専門職学位課程)	教職実践開発専攻 (教職大学院)	学校・学級経営コース, 生徒指導・教育相談コース, 教育課程・学習開発コース, 教科領域教育実践開発コース
看護学研究科 (修士課程)	看護学専攻	研究者育成コース(基盤システム看護学領域, 地域・精神看護学 領域, 成人・老年療養支援看護学領域, 母子健康看護学領域) 実践看護者育成コース(がん看護領域, 実践助産学領域, 実践助 産学開発領域)
工学研究科 (修士課程)	工学専攻	環境系コース エネルギー系コース 機械・情報系コース
農学研究科 (修士課程)	農学専攻	植物生産環境科学コース, 森林緑地環境科学コース, 応用生物科学コース, 海洋生物環境科学コース, 畜産草地科学コース, 農学国際コース
医学獣医学総合研究科 (修士課程)	医科学獣医科学専攻	生命科学研究者育成コース, 高度医療関連技師・サービスイノベー ション人材養成コース, 生命倫理コーディネーターコース
医学獣医学総合研究科 (博士課程)	医学獣医学専攻	高度臨床医育成コース, 高度獣医師育成コース, 研究者育成コース
農学工学総合研究科 (博士後期課程)	資源環境科学専攻	環境共生科学教育コース, 持続生産科学教育コース
	生物機能応用科学専攻	生命機能科学教育コース, 水域生物科学教育コース
	物質・情報工学専攻	新材料エネルギー工学教育コース, 生産工学教育コース, 数理情 報工学教育コース

## 寄附講座

部局名	研究部門名	設置期間	寄附者
医学部	地域医療・総合診療医学講座	平成 22 年～	宮崎県
	血液・血管先端医療学講座	平成 23 年～	宮崎県、延岡市
	宮崎小児地域医療学・次世代育成 支援講座	平成 30 年～	宮崎市
産学・地域連携センター	地域デザイン講座	平成 29 年～	米良電機産業株式会社

## 共同研究講座

部局名	研究部門名	設置期間	共同研究者
農学部	MIYADAI TAIYO AoiFarm Lab	平成 30 年～	株式会社くしまアオイ ファーム

# 附属図書館

## 蔵書構成（本館）

（令和元年5月1日現在） 単位：冊

区分	総記	哲学・宗教	歴史・地理	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・美術	言語	文学	合計
和漢書	18,900	20,194	31,232	102,456	71,128	49,988	34,652	20,338	12,335	30,070	391,293
洋書	4,233	7,475	4,719	17,150	40,072	11,303	10,155	2,226	4,731	12,084	114,148
合計	23,133	27,669	35,951	119,606	111,200	61,291	44,807	22,564	17,066	42,154	505,441

## 蔵書構成（医学分館）

（令和元年5月1日現在） 単位：冊

区分	基礎教育等（和洋）							専門教育等									合計
	人文	社会	自然	外国語	保健 体育	その他	小計	基礎医学			臨床医学			看護学			
								和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	
蔵書	6,296	4,810	6,760	4,281	460	411	23,018	12,286	22,315	34,601	24,493	36,173	60,666	5,020	579	5,599	123,884

## 雑誌情報

単位：タイトル

区分	所蔵	
	本館	医学分館
和雑誌	8,138	2,201
洋雑誌	2,756	1,726
合計	10,894	3,927

## 開館時間

	本館（仮設）			医学分館（仮設）	
	授業期	試験期	休業期	授業期	休業期
月曜日～金曜日	8:40～19:00	8:40～19:00	9:00～17:00	9:00～19:00	9:00～17:00
土曜日・日曜日	休館	休館	休館	休館	休館
祝日	休館	休館	休館	休館	休館

※附属図書館は本館・医学分館ともに改修工事中。

上記は仮設図書館の開館時間となっている。

本館は、令和2年5月頃、医学分館は令和2年1月頃、リニューアルオープン予定。

## 休館日

土曜日・日曜日、祝日、年末年始

※その他、臨時に開館時間の変更や休館を行う場合は掲示する。

## 利用状況

（平成30年度）

区分		本館		医学分館	
入館者（人）		193,905		81,283	
[うち学外者（人）]		[613]		[108]	
貸出		人数（人）	冊数（冊）	人数（人）	冊数（冊）
	学生	7,894	16,011	3,020	5,375
	教職員	870	2,068	515	1,110
	学外者	358	1,072	28	93
	合計	9,122	19,151	3,563	6,578
レファレンスサービス（件）		814		769	
学外文献	依頼（件）	876		1,071	
複写	受付（件）	427		568	

# 医学部附属病院

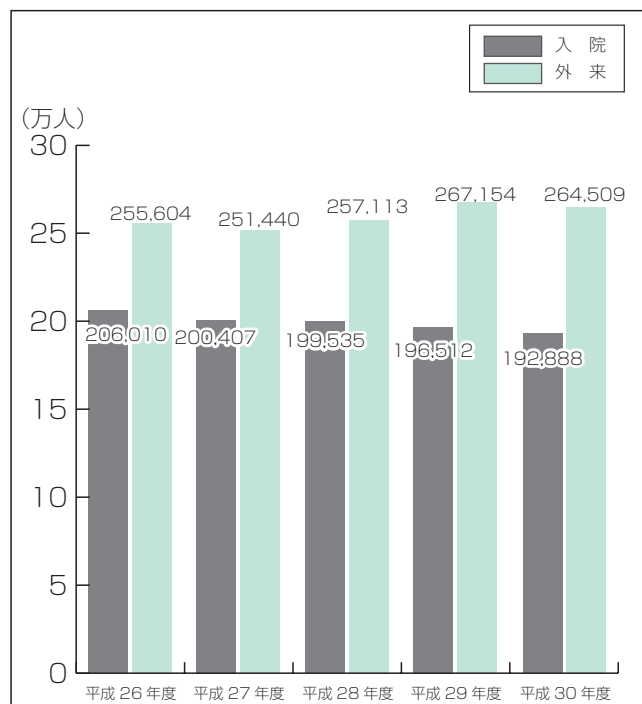
## 平成 30 年度医学部附属病院患者数

科名	区分	入院			外来			
		病床数	延患者数	1日平均患者数	初診	再診	延患者数	1日平均患者数
循環器内科		24	9,701	26.6	1,030	8,159	9,189	37.5
腎臓内科		11	3,972	10.9	225	2,408	2,633	10.7
肝臓内科		10	4,132	11.3	349	4,636	4,985	20.3
血液内科		25	8,520	23.3	349	5,471	5,820	23.8
神経内科			5,596	15.3	339	4,168	4,507	18.4
呼吸器内科		42	6,722	18.4	502	2,922	3,424	14.0
内分泌・代謝・糖尿病内科			2,548	7.0	506	8,422	8,928	36.4
膠原病・感染症内科		15	4,770	13.1	366	6,906	7,272	29.7
消化器内科		45	16,271	44.6	1,349	10,532	11,881	48.5
精神科		36	10,381	28.4	398	7,215	7,613	31.1
小児科		23	9,816	26.9	789	15,618	16,407	67.0
肝胆膵外科			3,330	9.1	266	1,974	2,240	9.1
心臓血管外科			9,067	24.8	510	3,803	4,313	17.6
消化管・内分泌・小児外科		63	4,971	13.6	259	1,372	1,631	6.7
呼吸器・乳腺外科			2,231	6.1	303	3,173	3,476	14.2
形成外科			851	2.3	178	1,595	1,773	7.2
整形外科		52	20,080	55.0	2,100	59,247	61,347	250.4
皮膚科		17	6,151	16.9	1,046	13,242	14,288	58.3
泌尿器科		24	7,845	21.5	676	10,027	10,703	43.7
眼科		24	8,318	22.8	1,600	18,215	19,815	80.9
耳鼻咽喉科		30	10,983	30.1	1,362	12,217	13,579	55.4
産科婦人科		27	15,316	42.0	901	8,491	9,392	38.3
放射線科		3	628	1.7	286	3,500	3,786	15.5
麻酔科		2	459	1.3	336	2,928	3,264	13.3
脳神経外科		20	8,018	22.0	442	4,120	4,562	18.6
歯科口腔外科・矯正歯科		14	3,980	10.9	2,222	18,452	20,674	84.4
救命救急センター		26	8,231	22.6	1,032	390	1,422	5.8
臨床腫瘍科					217	5,368	5,585	22.8
合計		※ 632	192,888	528.5	19,938	244,571	264,509	1,079.6

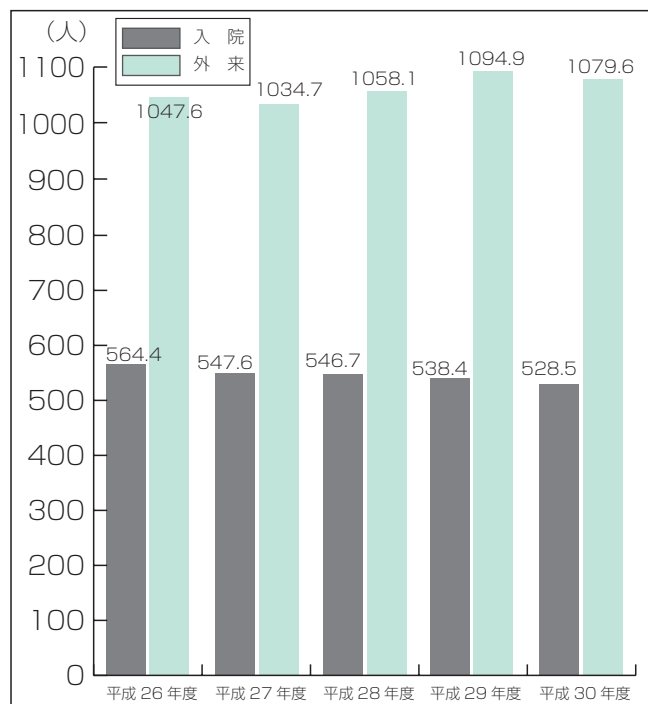
※その他の病床 99 床を含む

## 年度別患者数

### 延患者数



### 1日平均患者数



# 学生・生徒・児童及び園児数

## 1. 学部

(令和元年5月1日現在)

学部	学科・課程	定員		現員						
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
教育文化学部	学校教育課程			16						16
	人間社会課程			6						6
	計			22						22
教育学部	学校教育課程	120	480	125	126	124	124			499
	計	120	480	125	126	124	124			499
医学部	医学科	110	660	135	128	90	108	(1) 111	(1) 110	(2) 682
	看護学科	{10} 60	{20} 240	63	62	63	60			248
	計	{10} 170	{20} 900	198	190	153	168	(1) 111	(1) 110	(2) 930
工学部	環境応用化学科	58	232	58	59	61	(1) 65			(1) 243
	社会環境システム工学科	53	212	(1) 54	53	57	75			(1) 239
	環境ロボティクス学科	49	196	(1) 50	(1) 51	(1) 52	51			(3) 204
	機械設計システム工学科	54	216	(1) 57	(1) 55	54	(2) 67			(4) 233
	電子物理工学科	53	212	53	51	(1) 54	64			(1) 222
	電気システム工学科	49	196	(1) 50	(1) 50	51	65			(2) 216
	情報システム工学科	54	216	(2) 56	(2) 56	(2) 55	(1) 72			(7) 239
	計	{10} 370	{20} 1,480	(6) 378	(5) 375	(4) 384	(4) 459			(19) 1,596
農学部	植物生産環境科学科	52	208	(3) 53	(1) 53	(2) 54	(1) 52			(7) 212
	森林緑地環境科学科	52	208	(2) 53	52	(3) 55	(2) 56			(7) 216
	応用生物科学科	57	228	(2) 61	(2) 56	(2) 57	(1) 62			(7) 236
	海洋生物環境学科	33	132	(3) 35	(3) 33	(2) 33	(3) 37			(11) 138
	畜産草地科学科	61	244	(1) 62	(1) 60	(1) 62	(1) 67			(4) 251
	獣医学科	30	180	31	32	32	31	30	34	190
	計	285	1,200	(11) 295	(7) 286	(10) 293	(8) 305	30	34	(36) 1,243
地域資源 創成学部	地域資源創成学科	90	360	(1) 95	(1) 94	99	95			(2) 383
	計	90	360	(1) 95	(1) 94	99	95			(2) 383
合計		{20} 1,035	{40} 4,420	(18) 1,091	(13) 1,071	(14) 1,053	(12) 1,173	(1) 141	(1) 144	(59) 4,673

( ) 内は外国人留学生で内数

{ } 内は第3年次編入学定員分を外数

大学について

教育の特色

研究の特色

学部・別科  
大学院

附属施設等

学内施設  
学内組織

地域貢献

資料編

キャンパス  
アクセス  
マップ

## 2. 大学院（修士課程）

（令和元年5月1日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	計
教育学研究科	学校教育支援専攻	8	16	9	(2) 15	(2) 24
	計	8	16	9	15	24
看護学研究科	看護学専攻	10	20	8	20	28
	計	10	20	8	20	28
工学研究科	工学専攻	134	268	(20) 149	(6) 135	(26) 284
	計	134	268	149	135	284
農学研究科	農学専攻	68	136	(4) 57	(7) 63	(11) 120
	計	68	136	57	63	120
医学獣医学総合研究科	医科学獣医科学専攻	8	16	(2) 9	(2) 14	(4) 23
	計	8	16	9	14	23
合計		228	456	(26) 232	(17) 247	(43) 479

（ ）内は外国人留学生で内数

## 3. 大学院（博士後期課程・博士課程）

（令和元年5月1日現在）

研究科	専攻	定員		現員				
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	計
医学系研究科	医学専攻						4	4
	計						4	4
医学獣医学総合研究科	医学獣医学専攻	23	92	(6) 32	(10) 42	(10) 41	(14) 67	(40) 182
	計	23	92	(6) 32	(10) 42	(10) 41	(14) 67	(40) 182
農学工学総合研究科	資源環境科学専攻	7	21	(3) 7	(10) 13	(10) 25		(23) 45
	生物機能応用科学専攻	4	12	1	(1) 4	8		(1) 13
	物質・情報工学専攻	5	15	(5) 9	(3) 4	(3) 12		(11) 25
	計	16	48	(8) 17	(14) 21	(13) 45		(35) 83
合計		39	140	(14) 49	(24) 63	(23) 86	(14) 71	(75) 269

（ ）内は外国人留学生で内数



#### 4. 専門職大学院（専門職学位課程）

（令和元年5月1日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	計
教育学研究科	教職実践開発専攻 (教職大学院)	28	56	28	7	35

#### 5. 別科

別科	専修	定員	現員
畜産別科	畜産専修	4	5

#### 6. 科目等履修生・研究生等

学部・研究科		科目等履修生	研究生	特別聴講学生	日本語・日本文化研修留学生	特別研究学生
学部	教育学部	1	13	15	2	
	医学部					
	工学部			6		
	農学部	4		1		
	地域資源創成学部			6		
大学院	教育学研究科		3	1		
	看護学研究科					
	工学研究科					
	農学研究科	1				
	医学獣医学総合研究科(修士)		2			
	医学獣医学総合研究科(博士)		2			
	農学工学総合研究科					
合計		6	20	29	2	

#### 7. 附属学校園

（令和元年5月1日現在）

附属幼稚園	区分	定員				現員				学級数	
		3歳児	4歳児	5歳児	計	3歳児	4歳児	5歳児	計		
	2年保育	-	20	20	40	-	20	19	39	計5学級	
3年保育	28	28	28	84	28	28	26	82			
計	28	48	48	124	28	48	45	121			
附属小学校	学校区分	定員		現員						学級数	
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
	普通学級	105	630	103	98	101	98	95	93	588	計18学級 (各学年3学級)
	特別支援学級	4	24		2	2	2	3	1	10	計3学級 (2年、3-4年、5-6年)
計	109	654	103	100	103	100	98	94	598		
附属中学校	学校区分	定員		現員				学級数			
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	計				
	普通学級	160	480	160		157		159	476	計12学級 (各学年4学級)	
	特別支援学級	8	24		6		4		8	18	計3学級 (各学年1学級)
計	168	504	166		161		167	494			

# 平成31年度入学状況

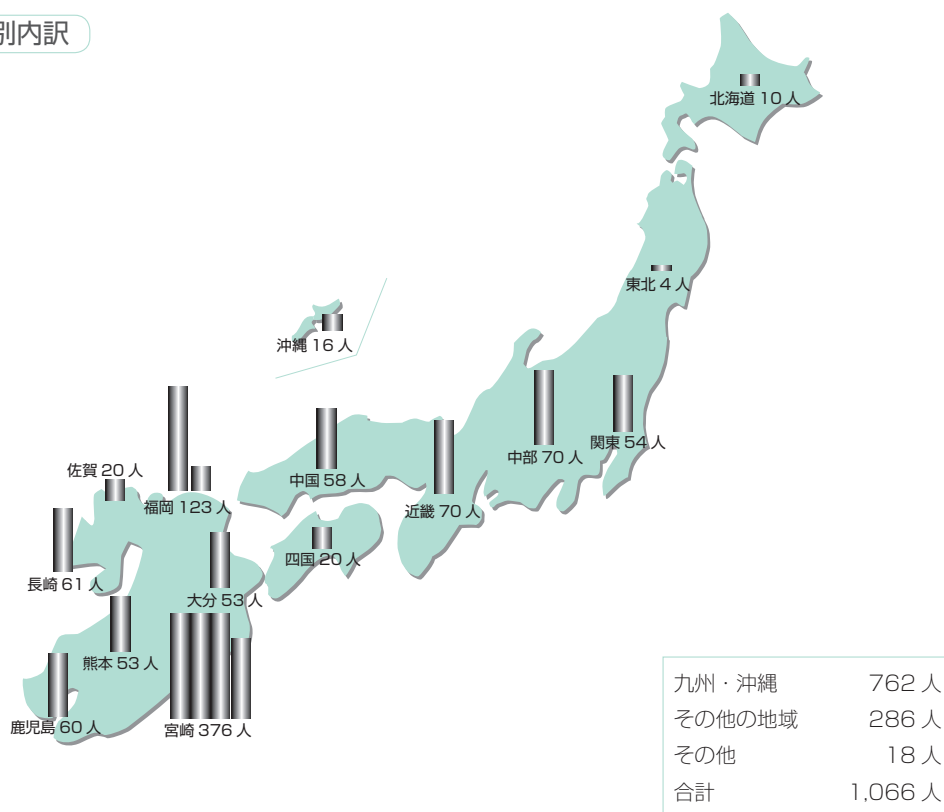
## 1. 学部

学部	学科・課程		入学定員	志願者			入学者		
				男	女	計	男	女	計
教育学部	小中一貫教育コース	小学校主免専攻	50	98	130	228	25	25	50
		中学校主免専攻	40	(1) 115	57	(1) 172	28	16	44
	教職実践基礎コース		10	13	14	27	5	5	10
	発達支援教育コース	子ども理解専攻	10	9	(2) 34	(2) 43	2	9	11
		特別支援教育専攻	10	7	19	26	2	8	10
	計		120	(1) 242	(2) 254	(3) 496	62	63	125
医学部	医学科		110	525	(3) 392	(3) 917	57	53	110
	看護学科		60	15	203	218	6	57	63
	計		170	540	(3) 595	(3) 1,135	63	110	173
工学部	環境応用化学科		58	(2) 163	65	(2) 228	44	14	58
	社会環境システム工学科		53	(4) 241	32	(4) 273	(1) 49	5	(1) 54
	環境ロボティクス学科		49	(6) 255	(1) 32	(7) 287	(1) 46	4	(1) 50
	機械設計システム工学科		54	(6) 296	(3) 23	(9) 319	55	(1) 2	(1) 57
	電子物理工学科		53	(5) 327	(1) 28	(6) 355	46	7	53
	電気システム工学科		49	(3) 188	11	(3) 199	(1) 49	1	(1) 50
	情報システム工学科		54	(16) 382	(1) 44	(17) 426	(2) 51	5	(2) 56
	計		370	(42) 1,852	(6) 235	(48) 2,087	(5) 340	(1) 38	(6) 378
農学部	植物生産環境科学科		52	(2) 188	(4) 164	(6) 352	21	(3) 32	(3) 53
	森林緑地環境科学科		52	(2) 184	71	(2) 255	(2) 36	17	(2) 53
	応用生物科学科		57	(3) 169	(1) 133	(4) 302	(2) 35	26	(2) 61
	海洋生物環境学科		33	(3) 106	(2) 39	(5) 145	(1) 25	(2) 10	(3) 35
	畜産草地科学科		61	(1) 60	125	(1) 185	(1) 18	44	(1) 62
	獣医学科		30	(1) 99	(1) 112	(2) 211	18	13	31
	[グローバル人材育成入試]		[10]	(6) 6	(3) 3	(9) 9	(6) 6	(3) 3	(9) 9
	計		285	(12) 806	(8) 644	(20) 1,450	(6) 153	(5) 142	(11) 295
地創成資源部	地域資源創成学科		90	(4) 277	179	(4) 456	(1) 52	43	(1) 95
	計		90	(4) 277	179	(4) 456	(1) 52	43	(1) 95
合計			1,035	(59) 3,717	(19) 1,907	(78) 5,624	(12) 670	(6) 396	(18) 1,066

( ) 内は外国人留学生で内数

農学部のグローバル人材育成入試の定員10名、志願者数9名及び入学者数9名は、獣医学科を除く農学部の定員255名、志願者数1,239名及び入学者数264名にそれぞれ含まれる。

## 出身高校所在地域別内訳



## 2. 大学院

研究科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
教育学研究科（修士）	8	(1) 1	9	(1) 10		9	9
教育学研究科（専門職学位）	28	16	12	28	16	12	28
看護学研究科（修士）	10	0	10	10		8	8
工学研究科（修士）	134	(2) 151	12	(2) 163	(4) 122	11	(4) 133
農学研究科（修士）	68	(2) 46	(3) 22	(5) 68	(2) 37	(1) 19	(3) 56
医学獣医学総合研究科（修士）	8	3	(2) 7	(2) 10	3	(2) 6	(2) 9
医学獣医学総合研究科（博士）	23	(2) 26	(2) 6	(4) 32	(2) 24	(2) 6	(4) 30
農学工学総合研究科（博士後期）	16	(3) 11	(2) 2	(5) 13	(3) 10	(1) 1	(4) 11
計	295	(10) 254	(9) 80	(19) 334	(11) 212	(6) 72	(17) 284

( ) 内は外国人留学生で内数

## 3. 別科

別科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
畜産別科	4	6	1	7	4	1	5

# 卒業生・修了者数

## 1.学 部

学部	学科・課程	平成30年度 卒業生数	全卒業者数	備考
教育学部	2年課程 第1部		1,050	昭和39年度廃止
	2年課程 第2部		267	
	小学校教員養成課程		4,782	
	中学校教員養成課程		2,812	
	養護学校教員養成課程		486	
	幼稚園教員養成課程		602	
	特別教科(理科)教員養成課程		612	
	特別教科(音楽)教員養成課程		984	
	人文社会課程		676	
	計		12,271	
教育文化学部	学校教育課程	145	2,163	平成11年度教育学部を改組 平成20年度学校教育課程、地域文化課程、 生活文化課程、社会システム課程を改組
	人間社会課程	79	631	
	地域文化課程		279	
	生活文化課程		373	
	社会システム課程		529	
	計	224	3,975	
医学部	医学科	108	3,899	
	看護学科	59	975	
	計	167	4,874	
工学部	機械工学科		1,428	平成4年機械工学科、工業化学科、土木工学科、 電気工学科、電子工学科、応用物理学科を改組  平成11年物質工学科、情報工学科を改組  平成24年材料物理学科、物質環境化学科、 電気電子工学科、土木環境工学科、機械システ ム工学科、情報システム工学科を改組
	工業化学科		1,297	
	土木工学科		1,577	
	電気工学科		1,191	
	電子工学科		231	
	応用物理学科		921	
	物質工学科		708	
	情報工学科		316	
	材料物理学科		585	
	物質環境化学科		866	
	電気電子工学科		1,765	
	土木環境工学科		1,112	
	機械システム工学科		975	
	情報システム工学科(旧)		712	
	環境応用化学科	53	227	
	社会環境システム工学科	48	179	
	環境ロボティクス学科	50	193	
	機械設計システム工学科	55	205	
	電子物理学科	52	199	
電気システム工学科	46	184		
情報システム工学科(新)	44	193		
	計	348	15,064	
農学部	農学部 第1部		50	昭和28年度廃止  昭和44年度水産学科を改組  昭和38年度総合農学科を改組  平成元年度農学科、林学科、畜産学科、農業化 学科、水産増殖学科、農業工学科、草地学科を 改組  平成12年度農林生産学科、生物資源利用学科、 動物生産学科を改組
	農学部 第2部		52	
	農学科		1,285	
	林学科		1,081	
	畜産学科		1,068	
	獣医学科	32	1,840	
	農業化学科		1,304	
	水産学科		292	
	水産増殖学科		626	
	総合農学科		302	
	農業工学科		922	
	草地学科		331	
	農林生産学科		1,265	
	生物資源利用学科		625	
	動物生産学科		785	
	植物生産環境科学科	53	305	
	森林緑地環境科学科	48	294	
	応用生物科学科(新)	57	315	
	海洋生物環境学科	30	176	
	畜産草地科学科	46	290	
食料生産科学科		610		
生物環境科学科		657		
地域農業システム学科		536		
応用生物科学科		546		
	計	266	15,558	
	合 計	1,005	51,742	

外国人留学生を含む

## 2. 大学院

研究科	平成 30 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科（修士）	5	566	平成 22 年度改称
医科学看護学研究科（修士）	2	81	
看護学研究科（修士）	6	28	
医学系研究科（修士）		115	平成 19 年度改称
医学系研究科（博士）	1	442	
工学研究科（修士）	137	1,468	
工学研究科（博士前期）		1,999	平成 18 年度をもって廃止
工学研究科（博士後期）		113	
農学研究科（修士）	60	2,264	
農学工学総合研究科（博士後期）	9	150	
医学獣医学総合研究科（修士）	11	47	
医学獣医学総合研究科（博士）	19	97	
合計	250	7,370	

修了者数には満期退学者を含む

### 専門職大学院

研究科	平成 30 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科（専門職学位）	22	260	

## 3. 専攻科

研究科	全修了者数	備考
教育専攻科	119	平成 6 年度をもって廃止
工学専攻科	30	昭和 51 年度をもって廃止
農学専攻科	50	昭和 48 年度をもって廃止
合計	199	

## 4. 別科

研究科	平成 30 年度修了者数	全修了者数	備考
畜産別科	5	326	

## 博士の学位授与者数

（平成 31 年 3 月 31 日現在）

区分	課程博士		論文博士	
	平成 30 年度	累計	平成 30 年度	累計
医学獣医学総合研究科	19	97		2
医学系研究科		441		228
工学研究科		113		5
農学工学総合研究科	13	154		2

# 平成 30 年度就職状況

## 1. 学部

(令和元年 5 月 1 日現在)

区分	卒業生数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育文化学部	224(123)	21( 9)	184(108)	94( 60)	90( 48)	19( 6)
医学部	167(100)	3( 3)	56( 50)	37( 35)	19( 15)	108(47)
工学部	348( 30)	149(11)	188( 19)	40( 7)	148( 12)	11( 0)
農学部	266(124)	67(23)	175( 89)	43( 22)	132( 67)	24(12)
合計	1005(377)	240(46)	603(266)	214(124)	389(142)	162(65)

( ) 内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：臨床研修医、研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

## 産業別就職状況

(令和元年 5 月 1 日現在)

区分	教育文化学部	医学部	工学部	農学部	合計
農業、林業	1( 0)			32(15)	33( 15)
漁業				1( 1)	1( 1)
鉱業、採石業、砂利採取業					
建設業	2( 2)		15( 0)	7( 4)	24( 6)
製造業	2( 2)		63( 3)	18( 7)	83( 12)
電気・ガス・熱供給・水道業	2( 1)		7( 1)		9( 2)
情報通信業	11( 4)		29( 3)	5( 3)	45( 10)
運輸業、郵便業	4( 3)		3( 0)	1( 0)	8( 3)
卸売業、小売業	14( 7)		3( 0)	17(11)	34( 18)
金融業、保険業	8( 4)		2( 0)	3( 3)	13( 7)
不動産業、物品賃貸業	5( 3)		1( 1)	1( 1)	7( 5)
学術研究、専門・技術サービス業	1( 1)		23( 6)	20(10)	44( 17)
宿泊業、飲食サービス業	5( 2)			1( 1)	6( 3)
生活関連サービス業、娯楽業	2( 2)				2( 2)
教育、学習支援業	93( 60)		3( 1)	5( 3)	101( 64)
医療、福祉		56(50)	1( 0)	2( 2)	59( 52)
複合サービス業				7( 5)	7( 5)
サービス業	5( 1)		1( 1)	6( 4)	12( 6)
公務	29( 16)		37( 3)	46(19)	112( 38)
その他				3( 0)	3( 0)
合計	184(108)	56(50)	188(19)	175(89)	603(266)

( ) 内は女子で内数

## 2. 大学院

### ◇ (修士・専門職学位) 課程

(令和元年 5 月 1 日現在)

区分	修了者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育学研究科	27(14)	1(1)	26(13)	19( 9)	7( 4)	
医科学看護学研究科	2( 1)		1( 1)	1( 1)		1(0)
看護学研究科	6( 6)		6( 6)	4( 4)	2( 2)	
医学獣医学総合研究科	11( 6)	2(1)	7( 4)	3( 1)	4( 3)	2(1)
工学研究科	137(10)	2(0)	131(10)	11( 0)	120(10)	4(0)
農学研究科	60(24)	3(0)	53(21)	6( 3)	47(18)	4(3)
合計	243(61)	8(2)	224(55)	44(18)	180(37)	11( 4)

### ◇ (博士後期・一貫) 課程

(令和元年 5 月 1 日現在)

区分	修了者数	就職者数	就職先内訳		その他
			県内	県外	
医学系研究科	1(0)				1(0)
医学獣医学総合研究科	19(5)	10(3)	6(1)	4(2)	9(2)
農学工学総合研究科	9(1)	8(1)	2(0)	6(1)	1(0)
合計	29(6)	18(4)	8(1)	10(3)	11(2)

( ) 内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

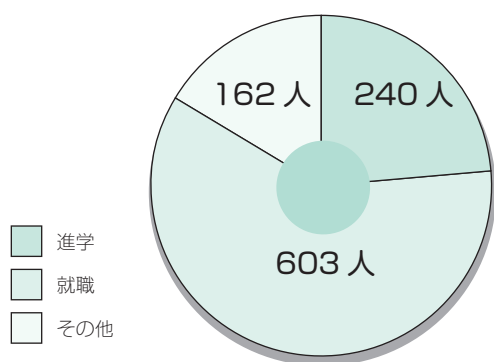
■産業別就職状況

(令和元年5月1日現在)

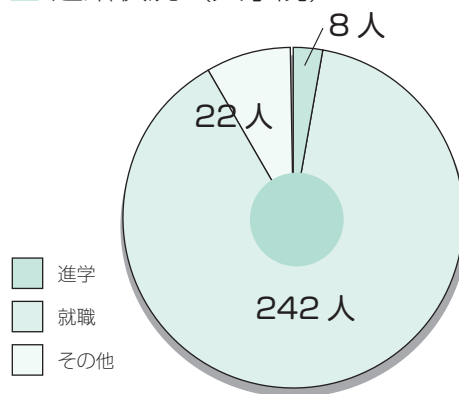
区分	教育学研究科	医科学看護学研究科	看護学研究科	医学系研究科	工学研究科	農学研究科	医学獣医学総合研究科	農学工学総合研究科	合計
農業、林業						5(0)			5(0)
漁業						1(0)			1(0)
鉱業、採石業、砂利採取業					1(0)				1(0)
建設業					9(2)	2(1)			11(3)
製造業	1(1)				84(7)	16(5)	1(1)	1(0)	103(14)
電気・ガス・熱供給・水道業					10(0)				10(0)
情報通信業					20(1)	3(1)			23(2)
運輸業、郵便業					1(0)				1(0)
卸売業、小売業					1(0)				1(0)
金融業、保険業						1(0)			1(0)
不動産業、物品賃貸業									
学術研究、専門・技術サービス業					4(0)	6(5)	7(3)	1(0)	18(8)
宿泊業、飲食サービス業									
生活関連サービス業、娯楽業					1(0)	1(0)			2(0)
教育、学習支援業	25(12)					4(1)	1(1)	5(1)	35(15)
医療、福祉		1(1)	6(6)			2(2)	8(2)		17(11)
複合サービス業						2(2)			2(2)
サービス業						1(1)			1(1)
公務						8(3)		1(0)	9(3)
その他						1(0)			1(0)
合計	26(13)	1(1)	6(6)		131(10)	53(21)	17(7)	8(1)	242(59)

( ) 内は女子で内数

■ 進路状況 (学部)



■ 進路状況 (大学院)



奨学生状況

(平成31年2月1日現在)

区分	在学生数	日本学生支援機構			その他の奨学団体	合計 (単位：人)	在学生に 対する割合	
		一種	二種	(うち併用者)				
学部	教育文化学部	249	91	45	11	4	129	51.8
	教育学部	377	114	64	22	2	158	41.9
	医学部	927	196	185	63	83	401	43.3
	工学部	1,582	515	345	101	17	776	49.1
	農学部	1,219	328	236	53	19	530	43.5
	地域資源創成学部	289	100	58	14	1	145	50.2
	計	4,643	1,344	933	264	126	2,139	46.1
大学院	教育学研究科	50	10	2	2	1	11	22.0
	医科学看護学研究科	1	0	0	0	0	0	0.0
	看護学研究科	26	6	1	1	0	6	23.1
	工学研究科	293	155	14	11	2	160	54.6
	農学研究科	125	61	4	3	4	66	52.8
	医学系研究科(博士)	5	0	0	0	0	0	0.0
	医学獣医学総合研究科(修士)	24	3	0	0	0	3	12.5
	医学獣医学総合研究科(博士)	168	3	0	0	2	5	3.0
農学工学総合研究科	81	12	1	1	0	12	14.8	
計	773	250	22	18	9	263	34.0	
合計	5,416	1,594	955	282	135	2,402	44.4	

※その他の奨学団体の人数は、大学に推薦依頼があり、採用された奨学生のみで、学生が直接奨学団体に応募して採用された者は含まない。また、留学生は含まない。

# 国際交流

## 1. 外国人留学生数

(令和元年5月1日現在)

国・地域名	学部			大学院			研究生			特別聴講(研究)学生			科目等履修生			日研生 (※1) 国費	教研生 (※2) 国費	合計
	国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費			
アジア	インド			1		1							2					4
	インドネシア			2	12	19	1											34
	韓国			6		2							7			1		16
	スリランカ				1													1
	タイ			30	8	2												40
	台湾					2								8				10
	中国			7		17		1						1				26
	バングラデシュ				1	1								5				7
	ベトナム				4	5		2										11
	マレーシア		7	6	2													15
	ミャンマー				7	14										1		22
モンゴル			1		2								1				4	
オセアニア	トンガ			1	1												2	
中東	アフガニスタン			1	7										1		9	
	トルコ												1				1	
ヨーロッパ	スロベニア												1				1	
北米	アメリカ												2				2	
中米	グアテマラ			1													1	
南米	ブラジル												1				1	
	パラグアイ															1	1	
アフリカ	エジプト					2											2	
	ギニア					1											1	
	ザンビア					1											1	
	スーダン					1											1	
	マダガスカル					1											1	
計		7	52	39	79	1	3		29		1	2	1				214	

※1 日本語・日本文化研修留学生

※2 教員研修留学生

## 2. 海外派遣留学生

区分	派遣国・地域名	大学名等	平成30年度 派遣留学生	
交流協定校等への留学 ※短期プログラム含む	アジア	韓国	釜慶大学	12
		韓国	順天大学	5
		韓国	全北大学	1
		中国	南京農業大学	14
		中国	温州医科大学	2
		中国	上海交通大学	4
		台湾	大葉大学	4
		台湾	開南大学	25
		台湾	東呉大学	4
		台湾	国立成功大学	4
		タイ	カセサート大学	10
		タイ	プリンス・オブ・ソククラ大学	7
		タイ	泰日工業大学	4
		ベトナム	ベトナム国家農業大学	13
	ミャンマー	インフラストラクチャ大学	7	
	北米	アメリカ	カルフォルニア大学アーバイン校	4
		アメリカ	エヴァグリーン大学	1
アメリカ		ペンシルバニア州立インディアナ大学	1	
ヨーロッパ	イタリア	カリアリ大学	1	
語学学校への留学等	アジア	ベトナム	公益財団法人国際開発救援団体	4
		ベトナム	株式会社ホンダロック	1
		ベトナム	株式会社旅武者	1
		フィリピン	Pistacia	1
		ミャンマー	グロース・ミャンマー	1
		ミャンマー	Moe 語学学校 他	1
	オセアニア	オーストラリア	波民キャンプ	1
		オーストラリア	メルボルン大学	1
		オーストラリア	アンドリュー・ピース・ワインズ	1
		オーストラリア	ニューイングランド大学	8
		ニュージーランド	オタゴランゲージセンター	6
	北米	アメリカ	セントルイス・ワシントン大学	1
		カナダ	ワーキングホリデー	1
	ヨーロッパ	イタリア	Scuola toscana / WWOF ITALIA	1
アフリカ	ウガンダ	Uganda Pioneers Association	1	
その他			5	
計			158	



## 3. 外国人研究者受入状況

(平成30年度)

国・地域名	受入部局								
	教育学部	医学部	工学部	農学部	地域資源創 成学部	国際連携 センター	産業動物 防疫 リサーチ センター	語学教育 センター	合 計
パキスタン		1							1
インド		29							29
バングラデシュ		3					1		4
スリランカ			1						1
ミャンマー		3	28	7		14			52
タイ		9		5			17		31
マレーシア				1		1			2
インドネシア		4	3	1			3		11
フィリピン				5					5
韓国	2	8	2	4		4		1	21
モンゴル		4	1			1			6
ベトナム		1		3		1			5
中国		4	5	15			1		25
カンボジア						1			1
ラオス						1			1
台湾				11	1				12
東ティモール						1			1
アフガニスタン				1					1
エジプト		1	1	2					4
タンザニア						1			1
マラウイ						1			1
モザンビーク		1							1
ブルンジ				1					1
ニュージーランド								1	1
カナダ		1					1		2
米国	1	2	1			1	1	2	8
メキシコ		2							2
ペルー		1							1
英国		2	1						3
ドイツ			1						1
イタリア		1							1
ポーランド				1					1
合 計 (32)	3	77	44	57	1	27	24	4	237

## 4. 海外オフィス

宮崎大学は4カ国5カ所に海外拠点オフィスを設置し、本学と各大学の学術交流・学生交流を積極的に支援しています。

オフィス名称	マランオフィス	ジョグジャカルタオフィス	バンコクオフィス	ハノイオフィス	ヤンゴンオフィス
国	インドネシア		タイ	ベトナム	ミャンマー
所在地	ブラウィジャヤ大学	ガジャマダ大学	カセサート大学	国立ハノイ農業大学	ヤンゴンコンピュータ大学
常駐職員	—	—	1人	1人	2人
設置時期	平成21年11月	平成26年11月	平成24年1月	平成27年3月	平成26年12月

## 5. 外国の大学等との交流一覧

### ■大学間交流協定（83機関）

（令和元年5月1日現在）

国・地域名	大学等	学術交流協定 締結年月日	学生交流覚書 締結年月日
アメリカ	エヴァーグリーン州立大学		S61. 7. 15
韓国	嶺南大学校	S62. 2. 8	H17. 11. 28
スロベニア	リュブリャナ大学	S62. 9. 30	H20. 4. 8
タイ	チュラロンコン大学	S63. 1. 26	H 8. 4. 12
韓国	順天大学校	H 1. 11. 21	H 7. 8. 22
中国	南京農業大学	H 2. 11. 28	H17. 11. 2
タイ	カセサート大学	H 4. 9. 4	H20. 10. 14
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学	H 7. 12. 11	H17. 3. 1 (医学部) H25. 12. 17 (農学部)
インドネシア	ハサヌディン大学	H 7. 2. 6	H19. 7. 2
中国	上海交通大学	H11. 12. 21	H18. 9. 1
タイ	キング・モンクット工科大学トンブリ校	H11. 7. 21	H23. 1. 19
中国	温州医科大学	H12. 3. 8	
インドネシア	ブラウイジャヤ大学	H16. 4. 5	H17. 9. 26
ベトナム	ベトナム国立農業大学	H17. 5. 30	H17. 5. 30
中国	青海大学	H17. 8. 29	H17. 8. 29
インド	インド工科大学カンプール校	H21. 7. 13	
インド	チャトラパティ・シャフジ・マハラシラ医科大学	H21. 7. 29	
韓国	全北大学校	H21. 12. 15	H21. 12. 15
イタリア	カリアリ大学	H22. 9. 27	H23. 5. 31
中国	西北農林科技大学	H22. 11. 10	H22. 11. 10
モンゴル	モンゴル国立大学	H23. 6. 28	H23. 6. 28
ベトナム	ベトナム教育訓練省国際教育開発局	H23. 9. 27	
インドネシア	ガジャマダ大学	H23. 10. 14	H23. 10. 14
アメリカ	カンザス州立大学	H24. 8. 2	
韓国	慶北大学校	H25. 1. 7	H25. 1. 7
中国	長沙理工大学	H25. 1. 10	H25. 1. 10
ミャンマー	ミャンマー保健省	H25. 1. 22	
台湾	開南大学	H25. 3. 15	H25. 3. 15
アメリカ	インディアナ大学・バドュー大学フォートウェイン校		H25. 3. 22
マレーシア	マレーシア・ブトラ大学	H25. 7. 1	H25. 7. 1
台湾	東呉大学	H25. 11. 14	H16. 9. 6
中国	昆明医科大学	H25. 12. 9	H25. 12. 9
タイ	トンブリ・ラジャハット大学	H26. 2. 6	H26. 2. 6
ミャンマー	イエイン獣医科大学	H26. 1. 10	
ミャンマー	ミャンマー牧畜水産地域開発省畜産繁殖獣医局	H26. 1. 10	
ミャンマー	ミャンマー科学技術省高等科学技術局	H26. 4. 29	H26. 4. 29
モンゴル	モンゴル国立医科大学	H26. 6. 19	H26. 6. 19
ウルグアイ	ウルグアイ共和国大学	H26. 6. 30	
ベトナム	ベトナム農業・地域開発省水資源教育局水環境研究所	H26. 10. 23	
アメリカ	トレド大学	H26. 10. 30	H27. 5. 28
エジプト	ベンハ大学	H26. 12. 25	H26. 12. 25
トルコ	エルジエス大学	H27. 2. 5	H27. 2. 5

### ■部局間交流協定（36機関）

国・地域名	大学・部局等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日	締結部局
台湾	国立成功大学医学院	H13. 3. 16	H22. 11. 16	医学部
中国	延辺大学医学院	H15. 2. 12		医学部
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部		H17. 3. 1	医学部
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学看護学部		H21. 2. 22	看護学部
中国	上海交通大学医学院		H22. 11. 8	医学部
中国	温州医科大学		H27. 6. 8	医学部
ミャンマー	ヤンゴン歯科大学	H28. 5. 17	H28. 5. 17	歯学部
タイ	マヒドン大学熱帯医学部	H28. 7. 11	H28. 7. 11	熱帯医学部
ペルー	カジェタノエレディア大学医学部	H28. 10. 15	H28. 10. 15	医学部
インドネシア	ブラウイジャヤ大学医学部	H28. 11. 2	H28. 11. 2	医学部
ペルー	カジェタノエレディア大学附属熱帯病医学研究所	H28. 10. 27	H28. 10. 27	熱帯病医学研究所
韓国	忠北大学病院	H29. 3. 20		病院
ミャンマー	ヤンゴン第一医科大学	H30. 7. 22	H30. 7. 22	医学部
ミャンマー	公衆衛生大学	H30. 12. 21	H30. 12. 21	公衆衛生学部
ポーランド	ヤン・コハノフスキ大学	H 5. 2. 1		工学部
オーストラリア	メルボルン大学理学部・工学部	H25. 10. 16		理学部・工学部
中国	重慶理工大学工学系学院	H27. 12. 24	H27. 12. 24	工学系学院
チュニジア	カルタゴ国立農業学院	H29. 9. 13	H29. 9. 13	農業学部
英国	スターリング大学養殖研究所	H 2. 8. 23		養殖研究所
モンゴル	モンゴル生命科学大学	H15. 10. 17	H20. 9. 12	生命科学部
韓国	釜慶大学校水産科学部	H24. 6. 7	H24. 6. 7	水産科学部
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学生物資源学部		H25. 12. 17	生物資源学部
イタリア	テラモ大学獣医学部	H25. 10. 2		獣医学部
韓国	韓国水産科学院戦略養殖部	H28. 9. 29		戦略養殖部
チェコ	メンデル大学林業・木材学部	H28. 12. 19	H28. 12. 19	林業・木材学部
タイ	マヒドン大学熱帯医学部		H28. 9. 22	熱帯医学部
タイ	マヒドン大学獣医学部		H28. 9. 22	獣医学部
タイ	コンケン大学獣医学部		H28. 11. 1	獣医学部
タイ	泰日工業大学経営学部	H29. 2. 6	H29. 2. 6	経営学部
イタリア	ミラノ大学健康・アニマルサイエンス、食品安全科学科	H26. 4. 29	H26. 4. 29	健康・アニマルサイエンス、食品安全科学科
イタリア	カラブリア州・健康保護福祉政策部、農林・造林部、カラブリア大学薬学・健康栄養科学科	H26. 11. 18		健康保護福祉政策部、農林・造林部、薬学・健康栄養科学科
タイ	マヒドン大学熱帯医学部	H28. 9. 22		熱帯医学部
タイ	マヒドン大学獣医学部	H28. 9. 22		獣医学部
タイ	コンケン大学獣医学部	H28. 11. 1		獣医学部
タイ	動物衛生研究所	H26. 3. 3		動物衛生研究所
カナダ	カナダ食品検査局・国立動物疾病センター・レスブリッジ研究所	H26. 11. 14		食品検査局・国立動物疾病センター・レスブリッジ研究所
英国	パーブライト研究所	H26. 11. 21		パーブライト研究所
ブラジル	サンパウロ州・サンパウロアグリビジネズ科学技術庁・生物研究所	H27. 9. 28		アグリビジネズ科学技術庁・生物研究所
韓国	ソウル大学校獣医校附属産業動物臨床研究・教育センター	H28. 3. 17		産業動物臨床研究・教育センター
カナダ	アルバータ大学	H29. 1. 27		獣医学部
タイ	チェンマイ大学獣医学部	H29. 4. 10		獣医学部
韓国	全北大学家畜疾病コントロールセンター	H29. 6. 16		家畜疾病コントロールセンター
タイ	チュラロンコン大学	H30. 1. 17	H30. 1. 17	獣医学部

# 連携協定機関

	機 関 名	協定締結年月日	目 的
1	株式会社宮崎銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
2	株式会社宮崎太陽銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
3	社団法人宮崎県工業会	平成18年 6月 8日	相互の資質の向上及び大学と県内企業との連携強化を図り、地域社会の発展に貢献することを目的とする。
4	"宮崎県経済農業協同組合連合会 (J A 宮崎経済連)"	平成19年 5月28日	宮崎県における農業の発展と相互の資質の向上に寄与することを目的とする。
5	宮崎県	平成19年 6月26日	宮崎の特性を生かし、豊かで活力ある地域社会の形成と発展に寄与することを目的とする。
6	学校法人高梁学園九州保健福祉大学	平成21年 9月 9日	相互に緊密かつ組織的な連携・協力体制を築き、両大学の教育・研究の推進を図ることにより、それらを通じて地域や国際社会への貢献に寄与することを目的とする。
7	梅田学園グループ	平成22年 4月13日	交通安全運動推進並びに宮崎大学の学生サークル活動支援のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
8	社団法人宮崎県商工会議所連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
9	宮崎県商工会連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
10	学校法人宮崎総合学院	平成22年10月 7日	各種資格取得並びに就職試験対策への協力のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
11	フェニックスリゾート株式会社	平成23年 2月15日	それぞれの資質の向上と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
12	宮崎県ホテル旅館生活衛生同業組合	平成23年 2月18日	スポーツメディカル構想の研究に関して連携協力し、宮崎県・宮崎市と連携を図りつつ、「スポーツランドみやざき」構想の新しい付加価値創造と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
13	"社団法人宮崎県商工会議所連合会 宮崎県農業協同組合中央会 宮崎県経済農業協同組合連合会 宮崎県漁業協同組合連合会 宮崎県森林組合連合会 宮崎県商工会連合会 宮崎県 ※宮崎県と本学はアドバイザーとして参加"	平成23年 3月31日	農工商連携が推進される中、宮崎県の農業、漁業、林業、工業、商業等の各産業間の一層の連携強化について情報交換や研究を行う場を設けるとともに、それぞれの経営資源を有効に活用して行う事業等の実施について合意した場合は、積極・果敢にその実行に取り組むこととし、もって活力ある地域社会の形成と経済の活性化を図るものとする。
14	宮崎市	平成23年 4月 5日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
15	日南市	平成24年 4月12日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
16	日向市	平成24年 7月 6日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
17	串間市	平成25年 5月10日 平成27年 8月17日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。 津波が発生し、又は発生する恐れがある場合において、地域住民等が緊急に避難しなければならぬときに、宮崎大学が所有する施設を地域住民等の一時避難場所として使用すること目的とする。
18	一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技会 組織委員会	平成26年 6月23日	それぞれの資源を活用し、オリンピック教育の推進や大会機運の醸成等、大会に向けた取組を進めるため、相互に連携・協力体制を構築することを目的とする。
19	独立行政法人国際協力機構 (JICA)	平成26年 7月 9日	開発途上国地域への国際協力事業の質の向上、国際貢献及び大学の教育・研究並びに国内の国際化の推進に寄与することを目的とする。
20	全国「道の駅」連絡会	平成27年 2月13日	「道の駅」における就労体験を通じて、学生が実践的に学習するとともに、活動の舞台となる「道の駅」の活性化の好循環に資することを目的とする。
21	"学校法人宮崎学園宮崎国際大学 学校法人宮崎学園短期大学"	平成27年 8月11日	双方がこれまでお互いに培ってきた実績を基盤にして、相互に緊密かつ組織的な連携・協力体制を築き、教育・研究の推進を図ることにより、それらを通じて地域や国際社会への貢献に寄与することを目的とする。
22	綾町	平成27年 9月15日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
23	"株式会社日本政策金融公庫宮崎支店 株式会社日本政策金融公庫延岡支店"	平成27年10月29日	研究成果等を地域社会へ還元すること及び緊密な情報交換を行うことにより地域の産学連携を推進し、もって中小企業及び地域社会の発展に貢献することを目的とする。
24	宮崎県立宮崎大宮高等学校	平成28年 1月12日	グローバルリーダー育成に資する教育を通して、生徒(学生)の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来有為なグローバルリーダーの育成を図ることを目的とする。
25	西都市	平成28年 8月29日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
26	川南町	平成28年10月12日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
27	日機装株式会社	平成28年11月28日	新技術の共同開発研究によるイノベーションの創出ならびに共同開発研究を通じた人材育成などを目的とする。
28	"世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会 宮崎県立高千穂高等学校"	平成29年 3月 5日	世界農業遺産としての認定を受けた同地域の若い世代を対象とした人材育成をはかりながら、同地域が持つ資源の再評価・体系化などを学術的な視点で明らかにし、地域活性化につなげていくことを目的とする。
29	公益財団法人かすさ DNA 研究所	平成29年 3月 8日	ゲノム研究を中心とした生命科学・技術に関する研究、生命科学・技術による医療・健康づくり、環境および食糧問題の解決に寄与することを目的とする。
30	門川町	平成29年 6月 5日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
31	宮崎県立図書館	平成30年 4月 1日	知の共有・創造の拠点として、学術、教育及び文化の継承・発展並びに地域貢献に寄与することを目的とする。
32	都城市	平成30年 7月23日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
33	都農町	平成30年 8月27日	都農町が新しく設置する「まちづくり団体」を核として幅広い分野で相互に協力し、都農町の地域課題を解決することを目的とする。

※大学間レベルの協定のみ記載。

大学について

教育の特色

研究の特色

学部・別科  
大学院

附属施設等

学内施設  
学内組織

地域貢献

資料編

キャンパス  
アクセス

# 平成 30 年度公開講座実施状況

## ●本学による公開講座

講座等の名称		参加人数	実施回数	実施期間	総時間数
1	宮崎の子どもの未来を考える ～就学前から就職まで、どれだけの教育費がかかるの?～	12名	3	5/19～6/2	4.5
2	「話す」と「書く」とを豊かに ～共生の中で苦手なことを克服する練習～	17名	2	8/4～8/5	6
3	小学生のための楽しい夏休み「算数自由研究」	120名	1	8/7	4
4	見て、触って、学ぼう!人工呼吸器装着患者のケア ～基本モードとモニター波形の見方～	22名	2	9/8	3.5
5	医学部公開講座 ～医療における最近の話題～	38名	3	8/25	3
6	皮膚がんを知ろう! ～早期発見・早期治療～	24名	1	6/17	3
7	親子でソーラートレインを作ろう	48名	2	8/10～8/11	4
8	親子で風力発電を学ぶ	45名	2	8/10～8/11	4
9	小学生のための太陽電池入門	28名	1	8/4	3
10	林業基礎体験学習講座 ～チェーンソー操作の基礎を学ぼう～	18名	1	5/20～6/10	10
11	海を知る2018 ～海の動物の生存戦略と多様性、海の恩恵を考える～	34名	5	8/25～9/22	7
12	住吉フィールド(牧場)公開講 牛にさわって、トラクタに乗って、牧場を体験しよう	16名	1	8/8	3
13	市民・高校生のための地域資源を活用した観光まちづくり講座 ～故郷のためのまちづくり入門～	26名	1	6/23	3
14	世界の言葉と文化を知ろう	28名	15	5/7～7/9	22.5
15	フランス語フランス文化 入門コース	10名	6	5/12～7/28	12
16	フランス語フランス文化 ステップアップコース	19名	8	5/12～9/29	16
17	児童のための中国語入門講座 ～親子でしゃべっちゃいな!～	9名	2	7/28～8/4	3
18	大人の基礎中国語 ～中国の言語と文化～	9名	6	5/12～7/21	12
19	フルマラソンに挑戦しよう!	40名	3	6/9～10/13	7.5
20	宮崎大学まちなかカレッジ2018(前期)	124名	3	6/2～9/22	6
21	TOEIC特別セミナー ～600点を目指す人向け～	23名	1	7/21	3
22	源氏物語 ～藤原業を巻を読む～	33名	2	5/12～5/13	6
23	医学部附属病院がん診療部 ELNEC-J研修 ～生活を支える緩和ケア～	20名	3	2/2～2/9	15.5
24	ロコモティブシンドローム予防対策講座	19名	1	2/23	2
25	医学部看護学科公開講座 ①子どもの成長のみかた ②病気の子どもの自立に向けて	11名	1	12/2	3
26	医学部看護学科公開講座(看護職者向け) ①診療記録に学ぶ医療安全 ②現場に活かすフィジカルアセスメント～	6名	2	10/13	4.5
27	医学部附属病院看護部公開講座 ①インフルエンザ・ノロウィルスから身を守ろう! ②皮膚の健康を保つキホンとコツ	22名	1	11/10	3
28	医学部公開講座 ～健康寿命を延ばすために今やるべきこと～	13名	1	12/1	2
29	医学部公開講座 「耳の日」講演会&相談会	34名	1	3/2	3
30	ランニングと健康づくり	57名	1	11/9	2
31	農学部田野フィールド公開講座 ～伐採の基礎を学び安全に作業をしよう～	10名	2	1/20～2/3	10
32	農学部田野フィールド公開講座 ～1泊2日の森林暮らし体験～	38名	2	11/23～12/2	14
33	農学部田野フィールド公開講座 ～植林体験と山菜採り～	30名	1	3/16	2.5
34	農学部延岡フィールド公開講座 ～魚のさばき方を学び、味わおう!～	23名	1	3/9	3
35	フランス語フランス文化 ～ステップアップコース(2)～	20名	8	10/13～2/9	16
36	フランス語フランス文化 ～入門コース(2)～	13名	6	10/13～1/12	12
37	英検ライティング対策講座	13名	4	12/8～1/26	8
38	初心者のための歌う外国語講座 ～外国語の響きにチャレンジ!～	9名	3	10/13～10/27	4.5
39	韓国語基礎コミュニケーション講座	17名	4	10/10～10/31	6.0
40	世界のことばと文化を知ろう! ～多言語・多文化への誘い～	33名	15	10/15～2/18	22.5
41	基礎中国語 ～中国の言語と文化～	9名	6	11/10～1/26	12.0
42	TOEIC 特別セミナー ～730点を目指す人向け～	15名	1	12/1	2.0
43	宮崎大学まちなかカレッジ2018(後期)	87名	3	10/13～2/23	6.0
44	イタリア食文化と初めてのイタリア語 ～イタリア人の食生活をのぞいてみよう～	22名	4	10/20～2/16	6.0
45	海外野球から学ぶ、選手指導・育成研修会 ①アメリカ独立リーグにおける育成方法 ②ドミニカ共和国における育成方法	22名	2	2/2～2/10	5.0
46	源氏物語 ～若菜上巻(前半)を読む～	34名	2	11/3～11/4	6.0

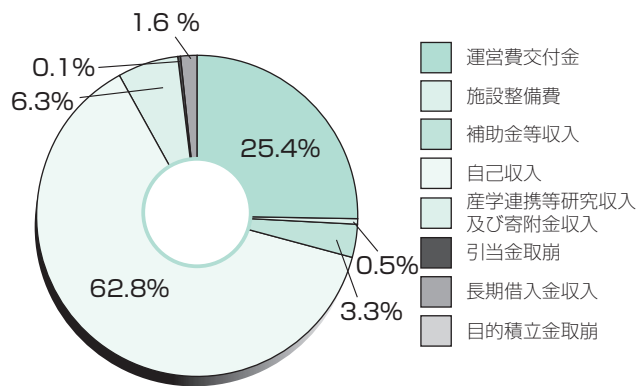
# 平成 30 年度経理状況

●決算額

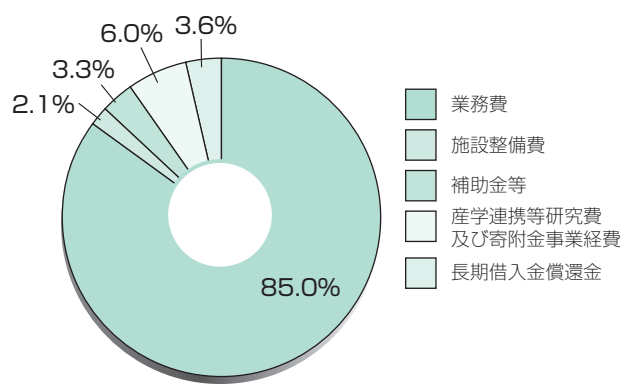
単位：円

収 入		支 出	
運営費交付金	9,583,473,423	業務費	教育研究経費 10,895,779,130
施設整備費	大学改革支援 学位授与機構施設費交付金 38,000,000	施設整備費	診療経費 20,800,688,111
	施設整備費補助金 141,776,640		783,294,640
	厚生労働省交付金 0		
補助金等収入	1,247,245,245	補助金等	1,244,179,444
自己収入	授業料、入学金及び検定料収入 2,914,259,080	産学連携等研究費	寄附金事業経費 676,791,938
	附属病院収入 19,926,851,085	及び寄附金事業経費	産学連携等研究費 1,567,125,332
	財産処分収入 0	長期借入金償還金	1,345,529,560
	雑収入(指定管理料収入含む) 900,511,527		
産学連携等研究収入及び寄附金収入	寄附金収入 734,791,396		
	産学連携等研究収入 1,643,020,930		
引当金取崩	46,643,981		
長期借入金収入	603,518,000		
前中期目標期間繰越積立金取崩	0		
目的積立金取崩	16,401,076		
合 計	37,796,492,383	合 計	37,313,388,155

## ■ 収入



## ■ 支出

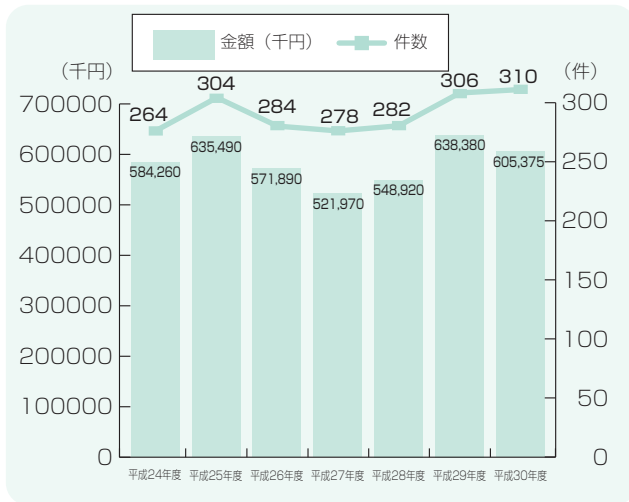


## ●科学研究費助成事業採択状況

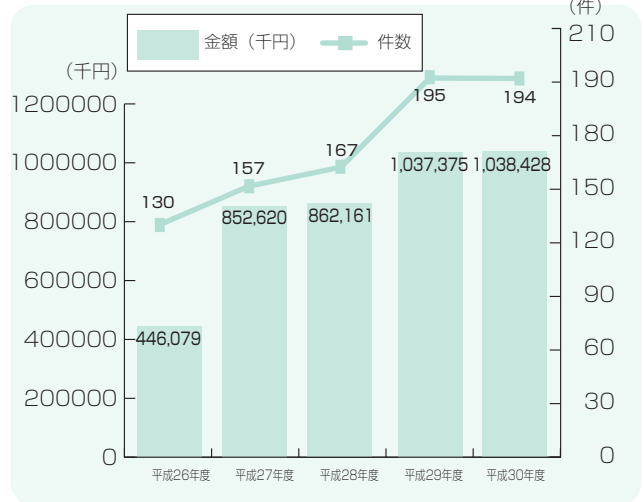
(平成 30 年度)

研究種目	採択件数	金額(千円)
新学術領域研究	3	18,200
基盤研究(A)	1	7,800
基盤研究(B)	43	194,740
基盤研究(C)	186	259,025
挑戦的萌芽研究	7	6,500
挑戦的研究(開拓)	1	4,030
挑戦的研究(萌芽)	8	18,980
若手研究(若手独立基盤形成支援含む)	14	25,870
若手研究(A)	3	17,030
若手研究(B)	31	39,260
研究活動スタート支援	2	2,340
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2	4,290
奨励研究	4	2,010
研究成果公開促進費	1	1,600
特別研究員奨励費	4	3,700
計	310	605,375

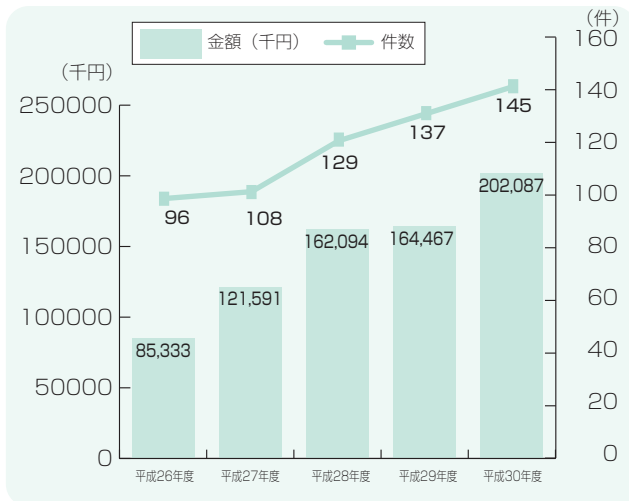
● 科学研究費助成事業受入状況



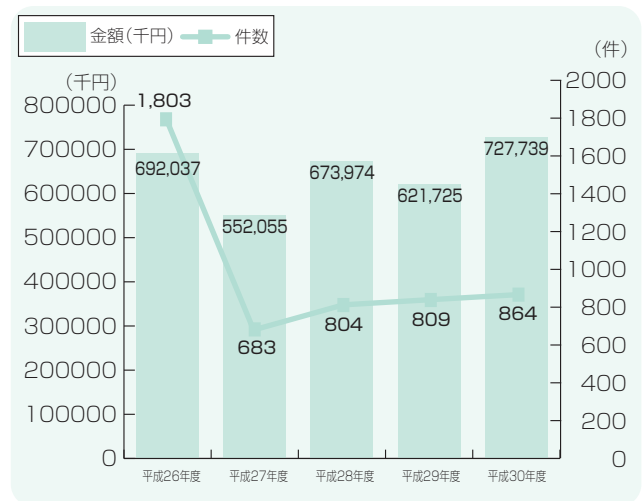
● 受託研究受入状況



● 共同研究受入状況



● 寄附金受入状況



● その他の競争的資金等

(平成 29 年度)

経費	件数	金額 (千円)
科学技術人材育成費補助金「テニュアトラック普及・定着事業」	1	2,000
科学技術人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (特色型)」	1	17,026
医療研究開発推進事業費補助金 (ナショナルバイオリソースプロジェクト)「ミヤコグサ・ダイズリソースの国際的拠点整備－収集・保存・提供－」	1	36,357
大学教育再生戦略推進費「地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)」	1	43,200

※代表者受入分のみ掲載し、金額は、本学内定額を記載 (間接経費を含む)

# 学生関係施設

## ● 大会館

建物名称	階別	室名	用途等
大会館	地下1	仮設図書館	※附属図書館本館の改修に伴う開設
	1	食堂・ホール・インフォメーションコーナー	食堂（830席）・ホール
		ベーカリーカフェ	喫茶・軽食（72席）
		学生ボランティア活動支援室	
	2	国際連携課	
	3	教育・学生支援センター	
センター教員室（3室） 研究推進課			

## ● 創立330記念交流会館

建物名称	室名	用途等
創立330記念交流会館	コンベンションホール	最大300人収容
	コンベンションルーム	最大50人収容
	売店	書籍、文具、その他
	学生支援部長室	
	教育支援課	
	学生生活支援課	
	学生なんでも相談室	学生の悩み等の相談
	キャリアアドバイザー室	就職に向けた資格、進路相談

## ● 学生寄宿舍及び国際交流宿舍

名称	区分	構造	入居定員（名）
男子寄宿舍		鉄筋5階建	100
女子寄宿舍		鉄筋5階建	100
国際交流宿舍		鉄骨鉄筋8階建	167
国際交流宿舍Ⅱ		鉄筋4階建	8
農学部住吉寄宿舍		鉄筋2階建	5
国際交流宿舍Ⅲ（木花ドミトリー）		鉄筋4階建	31

国際交流宿舍Ⅱの入居定員の単位は室

## ● 体育施設・課外活動施設

### ◇ 木花キャンパス

施設名	種目
体育館（武道場）	体操・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ハンドボール・卓球 柔道・剣道・空手道・合気道・少林寺拳法等
陸上競技場（400m）	陸上競技
テニスコート（ハード・クレイ・オムニ）	テニス・ソフトテニス
運動場	硬式野球・ソフトボール・ラグビー・サッカー・アメリカンフットボール等
プール（50m）	水泳
馬場（厩舎）	馬術
弓道場	弓道
課外活動共用施設	体育系・文化系サークル共用室
	文化系（音系）サークル共用室
	グラウンド・サークル棟
清花グラウンド	野球・サッカー・ラグビー

### ◇ 清武キャンパス

施設名	種目
テニスコート（ハード・クレイ）	テニス・ソフトテニス
体育館	バレーボール・卓球・バスケットボール・バドミントン等
プール（50m）	水泳
武道場	柔道・剣道・空手
弓道場	弓道

# 土地・建物

(令和元年5月1日現在)

区 分	土地 (㎡)	建 物 (㎡)		備 考
		建面積	延面積	
<b>[木花地区]</b>	<b>839,592</b>	<b>44,234</b>	<b>117,388</b>	※安全衛生保健センターを含む
事務局		1,332	3,608	
創立 330 記念交流会館		1,673	1,670	
中央機械棟		430	430	
門衛所		64	64	
大学会館		1,525	3,458	
体育館・器具庫		3,197	3,624	
教育学部・地域資源創成学部		6,706	22,712	※附属教育協働開発センターを含む
工学部		7,041	22,328	
農学部		10,199	31,520	
農学部		5,802	25,147	
農学部附属フィールド科学教育研究センター 木花フィールド (農場)		2,258	2,615	
附属動物病院		1,181	1,867	
産業動物教育研究センター		541	1,125	
附属農業博物館		417	766	
附属図書館	778,523	1,829	4,977	
産学・地域連携センター		1,563	3,127	
創造プロジェクト棟		546	898	※イスラーム文化研究交流棟を含む
メディア科学実験総合センター等		693	1,877	
情報基盤センター		662	1,254	
総合研究棟		2,455	3,972	※技術家庭棟を含む
寄宿舍		931	3,691	
国際交流宿舍		978	5,211	
課外活動施設		1,580	2,306	
実験排水処理施設		226	173	
地域デザイン棟		354	238	
農学部水田	61,069	250	250	
<b>[清武地区]</b>	<b>224,316</b>	<b>38,781</b>	<b>123,410</b>	
医学部				
医学部事務局・メディア科学実験総合センター等		12,040	36,483	
医学部附属病院		23,988	76,438	
附属図書館医学分館		854	1,908	
総合教育研究棟		1,899	8,581	
<b>[花殿・船塚地区]</b>	<b>61,777</b>	<b>8,719</b>	<b>15,626</b>	
教育学部附属幼稚園	21,797	1,058	913	
木犀会館		132	132	
教育学部附属小学校	39,980	3,613	7,162	
教育学部附属中学校		3,916	7,419	
<b>[その他]</b>	<b>6,694,031</b>	<b>7,659</b>	<b>8,783</b>	
農学部附属フィールド科学教育研究センター				
住吉フィールド (牧場)	502,040	6,267	6,681	
田野フィールド (演習林)	6,185,887	759	1,033	
延岡フィールド (水産実験所)	6,104	633	1,069	
職員宿舍	29,553	3,782	16,228	
木原新職員宿舍	10,706	1,464	7,330	
木原職員宿舍	10,494	1,097	4,014	
西新町職員宿舍	8,353	1,221	4,884	
保育施設 (くすの木保育園)	973	252	225	(木原職員宿舍敷地内)
計	7,850,242	103,427	281,660	



# 施設所在地

## ●木花キャンパス

0985-58-7111(番号案内)

名称	電話番号	所在地
事務局	0985(58)2854	〒 889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
教育学部	0985(58)2889	
附属教育協働開発センター	0985(58)5287	
工学部	0985(58)2871	
農学部	0985(58)2875	
附属フィールド科学教育研究センター		
木花フィールド(農場)	0985(58)7154	
附属動物病院	0985(58)7286	
附属農業博物館	0985(58)2898	
地域資源創成学部	0985(58)7848	
附属図書館本館	0985(58)7147	
産学・地域連携センター	0985(58)4017	
機器分析支援部門	0985(58)2868	
教育・学生支援センター	0985(58)7856	
フロンティア科学実験総合センター		
遺伝資源分野	0985(58)7580	
RI分野 RI木花分室	0985(58)2877	
国際連携センター	0985(58)7104	
産業動物防疫リサーチセンター	0985(58)7674	
安全衛生保健センター	0985(58)3423	
情報基盤センター	0985(58)2867	
清花アテナ男女共同参画推進室(木花)	0985(58)7508	
男子寄宿舎		
女子寄宿舎		
国際交流宿舎	0985(58)7571	
創立330記念交流会館	0985(58)7427	
地域デザイン棟	0985(58)7884	

## ●清武キャンパス

0985-85-1510(代表)

名称	電話番号	所在地
医学部	0985(85)1510	〒 889-1692 宮崎市清武町木原 5200 番地
附属病院	0985(85)1510	
附属図書館医学分館	0985(85)9198	
フロンティア科学実験総合センター		
生理活性物質機能解析分野	0985(85)9427	
生理活性物質探索病態解析分野	0985(85)9718	
生理活性ペプチド探索分野	0985(85)9738	
感染病態ゲノム科学分野	0985(85)0871	
生物資源分野	0985(85)2971	
分子形態・機能解析分野	0985(85)9221	
RI分野 RI清武分室	0985(85)1514	
安全衛生保健センター分室	0985(85)2392	
清花アテナ男女共同参画推進室(清武)	0985(85)1252	

## ●教育学部

名称	電話番号	所在地
附属幼稚園	0985(24)6707	〒 880-0031 宮崎市船塚1丁目1番地
附属小学校	0985(24)6706	〒 880-0026 宮崎市花殿町7番49号
附属中学校	0985(25)1122	〒 880-0026 宮崎市花殿町7番67号

## ●農学部

名称	電話番号	所在地
附属フィールド科学教育研究センター		
住吉フィールド(牧場)	0985(39)1034	〒 880-0121 宮崎市大字島之内 10100-1
田野フィールド(演習林)(田野地区)	0985(86)0036	〒 889-1702 宮崎市田野町乙 11300
(大納地区)	連絡先 0987(76)2107 松下広幸方	〒 888-0221 串間市大字大納字平原 1885
(崎田地区)		〒 888-0009 串間市大字崎田字名切 4270
延岡フィールド(水産実験所)	0982(37)0327	〒 889-0517 延岡市赤水町 376-6

## ●その他

名称	電話番号	所在地
まちなかキャンパス	0985(55)0553	〒 880-0805 宮崎市橋通東3-4-36 村武ビル1階
日南デスク	0985(58)7188	〒 887-0014 日南市岩崎3-4-1-2 Itten堀川ビル2階
くすの木保育園	0985(84)2211	〒 889-1601 宮崎市清武町木原 5600 番地

# キャンパスマップ・アクセス

## 木花キャンパス

# Kibana Campus



### 農学部

- 1 実験研究棟(北)
- 2 講義棟
- 3 実験研究棟(南)
- 4 実験研究棟(獣医)
- 5 附属動物病院
- 6 附属農業博物館
- 7 標本植物温室
- 8 附属フィールド科学教育研究センター

### 教育学部

- 9 講義棟
- 10 実験研究棟
- 11 美術棟
- 12 技術・家庭棟
- 13 音楽棟
- 14 附属教育協働開発センター

### 地域資源創成学部

- 15 講義棟
- 16 実験研究棟

### 工学部

- 17 実験研究棟(A棟)
- 18 講義棟(B棟)
- 19 実験研究棟(C棟)
- 20 機械実習工場
- 21 機械工学実験実習棟
- 22 高電圧実験棟
- 23 土木工学実験実習棟
- 24 実験研究棟(E棟)

- 25 大会館  
(教育・学生支援センター、国際連携センター、学生食堂、インフォメーションコーナー)
- 26 附属図書館(本館)
- 27 創立330記念交流会館
- 28 地域デザイン棟
- 29 事務局棟
- 30 安全衛生保健センター、障がい学生支援室
- 31 情報基盤センター
- 32 フロンティア科学実験総合センター(RI木花分室)
- 33 産学・地域連携センター(産学・地域連携施設)
- 34 創造プロジェクト棟
- 35 イスラム文化研究交流棟
- 36 産学・地域連携センター(機器分析支援施設)
- 37 フロンティア科学実験総合センター(遺伝資源分野)
- 38 総合研究棟
- 39 産業動物教育研究センター
- 40 国際交流宿舎
- 41 女子寄宿舎
- 42 男子寄宿舎
- 43 木花ドミトリー

### 太陽光発電システム・太陽熱給湯システム

- A ビームダウン式太陽集光装置
- B 工学部実験研究棟屋上
- C 附属図書館屋上
- D 国際交流宿舎屋上
- E 集光型太陽光発電システム(体育館北側)
- F 教育学部技術・家庭棟屋上
- G 教育学部実験研究棟屋上

### 自然科学野外観察教材開発プロジェクト

- M 木花キャンパスの地質の全体像
- I 下末吉海進期以降の段丘堆積物
- J 宮崎層群の砂岩泥岩互層
- K ナンバンギセル(ハマツツボ科)
- L 照葉樹林

- ♿ 多目的トイレ
- EV エレベーター



## 清武キャンパス

# Kiyotake Campus



### 医学部

- ① 講義実習棟
- ② 総合教育研究棟
- ③ 福祉施設
- ④ 基礎臨床研究棟
- ⑤ 附属図書館(医学分館)
- ⑥ 附属病院
- ⑦ 管理棟
- ⑧ フロンティア科学実験総合センター (R|清武分室)
- ⑨ フロンティア科学実験総合センター (生物資源分野)
- ⑩ 外来診療棟
- ⑪ ヘリポート(2カ所)
- ⑫ 清武ドミトリ

- 多目的トイレ
- エレベーター

## アクセス

### 施設位置図

- ① 宮崎大学(木花キャンパス)
- ② 宮崎大学医学部(清武キャンパス)
- ③ 住吉フィールド(牧場)
- ④ 田野フィールド(演習林)
- ⑤ " (大納地区)
- ⑥ " (崎田地区)
- ⑦ 延岡フィールド(水産実験所)
- ⑧ 附属小学校・附属中学校
- ⑨ 附属幼稚園
- ⑩ まちなかキャンパス
- ⑪ 日南デスク



### 宮崎大学までの交通機関

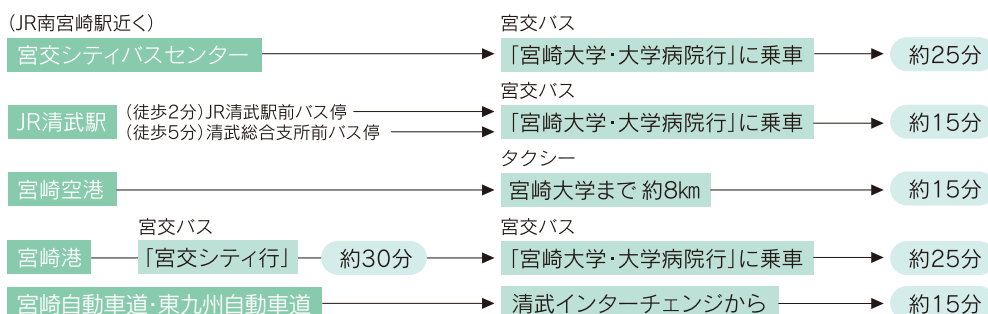
交通機関	乗車/乗船方法	所要時間
JR南宮崎駅(近く)	宮交バス	
宮交シティバスセンター	「宮崎大学・大学病院行」に乗車	約25分
JR清武駅 (徒歩2分)JR清武駅前バス停 (徒歩5分)清武総合支所前バス停	宮交バス 「宮崎大学・大学病院行」に乗車	約15分
宮崎空港	タクシー 宮崎大学まで約8km	約15分
宮崎港	宮交バス 「宮交シティ行」	約30分
宮崎自動車道・東九州自動車道	「宮崎大学・大学病院行」に乗車	約25分
	清武インターチェンジから	約15分



## 問合せ先一覧

問合せ内容	問合せ先	E-mail	電話番号
宮崎大学の総合案内	総務広報課 総務係	soumuka@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2854
広報について	総務広報課 広報係	kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7114
情報公開について	総務広報課 法務・コンプライアンス係	houki@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7115
授業料納入について	財務課 出納係	suitou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7122
購入物品について(政府調達)	経理調達課 政府調達係	seicho@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7574
購入物品について	経理調達課 調達総括係	soukatu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2858
入試について	入試課 入試係	nyushi@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7138
就職関係について	学生生活支援課 キャリア支援係	syusyoku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7141
学生生活支援(奨学金、授業料免除、アルバイト)について	学生生活支援課 経済支援係	kousei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7976
証明書発行(在学生、卒業生)について	教育支援課 教務係	gakumukyomu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7856
職員の採用について	人事課 人事係	jinjika@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7109
学生寄宿舎について	学生生活支援課 学生支援係	kousei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7142
留学生の受入について	国際連携課	ryugaku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7134
産学連携について	産学・地域連携課	sangaku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7951
外部資金申請関係について	研究推進課 研究推進係	k-jyosei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7113
外部資金契約経理について	産学・地域連携課	gaibusikin@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7246
公開講座・地域連携について	産学・地域連携課	m-chiiki@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7188
教員免許状更新講習について	教育支援課 教員免許状更新講習事務係	kyomen@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7975
教育学部・大学院教育学研究科の総合案内	教育学部・地域資源創成学部 総務係	edusoumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2889
医学部・大学院看護学研究科の総合案内	医学部 学生支援課 教務係	kyoumu@med.miyazaki-u.ac.jp	0985-85-9243
工学部・大学院工学研究科の総合案内	工学部 総務係	kousoumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2871
農学部・大学院農学研究科の総合案内	農学部 総務係	nou-soumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2875
地域資源創成学部の総合案内	教育学部・地域資源創成学部 総務係	atrium@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7848
大学院農学工学総合研究科の総合案内	工学部 教務・学生支援係 農学工学総合研究科担当	noukou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7870
大学院医学獣医学総合研究科の総合案内	医学部 学生支援課 大学院係	graduate@med.miyazaki-u.ac.jp	0985-85-9126
まちなかキャンパスについて	産学・地域連携課	machinaka@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-55-0553
日南デスクについて	産学・地域連携課	m-chiiki@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7188

## 宮崎大学までの交通機関



※交通アクセスについては50ページにも掲載しています。

令和元年度(2019年度)  
 国立大学法人 宮崎大学概要  
 〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地  
 URL <http://www.miyazaki-u.ac.jp/>

[編集発行]  
 国立大学法人宮崎大学広報企画室  
 TEL(0985)58-7114 FAX(0985)58-2886

令和元年7月発行



宮崎大学オリジナルキャラクター  
 「みやだいまうくん」